

蓮ヶ池横穴群

保存整備事業概報Ⅳ

(平成元年度計測調査概報)

1990

宮崎市教育委員会



史跡蓮ヶ池横穴群航空写真



史跡蓮ヶ池横穴群中央広場修景

序

宮崎市は、昭和59年に史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備事業の計画を決定し、年次的に、その事業の遂行にあたってきたところであります。

昭和60年度に横穴の計測調査を実施して以来「蓮ヶ池横穴群」保存整備事業概報Ⅰ（1986）、同概報Ⅱ（1988）、同概報Ⅲ（1989）を刊行し、今回、同概報Ⅳを刊行することになりました。

横穴保存工事は、昭和61年度に12号横穴の復元、補強工事を始めとし、平成元年度までに20基の保存工事を実施してきたところであります。

環境整備及び都市計画公園事業による、史跡公園整備事業も並行しての事業推進を図り、本年で約75%の事業を完了し、昨年に比して、なお一層の史跡公園としてのイメージが持てるところとなっていました。

なお、環境整備事業と一体化した（仮称）みやざき歴史文化館建設につきましても、基本構想が固まり、平成2年2月には基本設計、平成2年3月末日までには実施設計を完了し、平成2年7月頃を建築着工の予定で作業を進めているところであります。

平成元年度の主な事業としては、横穴の発掘調査（71号、72号、73号、53号の4基）、横穴保存工事（15号、16号～21号、52号横穴の前面壁被覆強化、羨道部の復元強化、玄室内強化）、及び修景工事として中央谷間の奥部、69号横穴の前部広場の整形、造成、張り芝、植栽、ベンチの設置、及び12号横穴東傾斜面の整形、植栽、それに9～11号横穴から、16号～21号横穴前部広場に通じる階段設置工事を行っている。また、中央谷間の東側丘陵尾根筋に沿った、見学道の設置工事も行っております。

なお、本報告書は、発掘調査を主体とし、保存環境整備工事を加味したものであり、今後の横穴の保存活用に資することを念じるものであります。

本事業推進に貴重なご指導、ご助言いただきました先生方、並びに作業に従事いただいた方々に感謝いたします。

平成2年3月

宮崎市教育委員会

教育長　柚木崎

敏

例　　言

1. 本書は、史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備事業にかかる、横穴群の事前計測調査記録の概報である。
2. 本調査は、平成元年度に国庫補助・県費補助を受けて、平成元年11月7日から同年12月6日までの期間で、宮崎市教育委員会が実施した。
3. 調査組織は次のとおりである。

調査主体	宮崎市教育委員会	係長	野間重孝
調査員	文化振興課 タ	主事	中山豪
調査補助	文化振興課	主事	永井淳生
横穴保存工事指導	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター研究指導部 遺物処理研究所	室長	沢山正昭
		主任研究官	肥塚隆保
保存環境整備指導	保存工学研究室	室長	田中哲雄
事務局	宮崎市教育委員会	教育長	楠木崎敏
		教育局長	守田達朗
		文化振興課長	松元正

4. 本概報の執筆は野間が行った。
5. 掲載した図面の実測、整図、及び図版の作成は、野間、中山、永井、久富、橋本、椎が分担してあたった。
6. 写真撮影は、中山が行った。
7. 横穴の保存にかかる事前の調査及び発掘方法について、奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター研究指導部遺物処理研究室、沢山正昭室長、肥塚隆保主任研究官に指導助言をいただいた。
8. 保存環境整備事業について、奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター研究指導部保存工学研究室、田中哲雄室長に指導助言をいただいた。
9. 本概要の編集は、野間が主として行った。

本文目次

第Ⅰ章 位置と環境及び事業の経緯	1
1 位置と環境	1
2 事業の経緯	2
第Ⅱ章 平成元年度保存環境整備事業の概要	3
1 横穴保存工事	3
2 修景工事	19
3 都市計画公園整備事業	19
第Ⅲ章 発掘調査の概要	20
1 第2集団Gグループ	20
(1) 53号横穴	20
2 第2集団Aグループ	26
(1) 71号横穴	26
(2) 72号横穴	30
3 単独横穴	32
(1) 73号横穴	32
第Ⅳ章 結語	42

挿図目次

第1図	史跡蓮ヶ池横穴群位置図	4
第2図	史跡蓮ヶ池横穴群全体地形図	5
第3図	史跡蓮ヶ池横穴群分布図(1)	7
第4図	史跡蓮ヶ池横穴群分布図(2)	9
第5図	保存工事図面(1) 第15号横穴遺構復元図	11
第6図	保存工事図面(2) 第16号横穴遺構復元図	12
第7図	保存工事図面(3) 第17号横穴遺構復元図	13
第8図	保存工事図面(4) 第18号横穴遺構復元図	14
第9図	保存工事図面(5) 第19号横穴遺構復元図	15
第10図	保存工事図面(6) 第20号横穴遺構復元図	16
第11図	保存工事図面(7) 第21号横穴遺構復元図	17
第12図	保存工事図面(8) 第52号横穴遺構復元図	18
第13図	53号横穴立地図	20
第14図	53号横穴実測図	23
第15図	53号横穴出土遺物実測図	25
第16図	71号・72号横穴立地図	26
第17図	71号横穴実測図	27
第18図	72号横穴実測図	29
第19図	72号横穴出土遺物実測図及び図版	29
第20図	73号横穴立地図	32
第21図	73号横穴実測図	33
第22図	73号横穴出土遺物実測図(須恵器)	37
第23図	73号横穴出土遺物実測図(土師器)	39
第24図	73号横穴出土遺物実測図(鉄器)	41

図版目次

図版 1	53号横穴	21
図版 2	53号横穴玄室入口部	21
図版 3	53号横穴側壁調整痕	22
図版 4	71号横穴	26
図版 5	71号横穴玄室及び奥壁	28
図版 6	71号横穴側壁調整痕	28
図版 7	72号横穴	30
図版 8	72号横穴玄室	31
図版 9	72号横穴玄室及び奥壁	31
図版10	73号横穴	32
図版11	73号横穴玄室	34
図版12	73号横穴玄室及び奥壁	34
図版13	53号横穴出土遺物	45
図版14	73号横穴出土遺物(須恵器)	46
図版15	73号横穴出土遺物(土師器)	47
図版16	73号横穴出土遺物(鉄器)	48
図版17	53号横穴 土のうによる被覆	49
図版18	71号横穴 土のうによる被覆	49
図版19	72号横穴 土のうによる被覆	50
図版20	73号横穴 土のうによる被覆	50
図版21	横穴保存工事 (1)	51
図版22	横穴保存工事 (2)	52
図版23	横穴保存工事 (3)	53
図版24	横穴保存工事 (4)	54
図版25	横穴保存工事 (5)	55
図版26	横穴保存工事 (6)	56
図版27	横穴保存工事 (7)	57
図版28	横穴保存工事 (8)	58
図版29	修景工事——12号横穴周辺修景 (1)	59
図版30	修景工事——中央谷間奥東支谷広場 (2)	60
図版31	修景工事——第1集団CグループからD、Eグループに通ずる見学道 (3)	61
図版32	修景工事——中央部丘陵見学道 (4)	62
図版33	修景工事——せせらぎ水路工事 (1)	63
図版34	修景工事——せせらぎ水路工事 (2)	64

図版35	修景工事——御諏訪池奥部広場 (1)	65
図版36	修景工事——御諏訪池奥部広場 (2)	66
図版37	修景工事——中央広場 (1)	67
図版38	修景工事——中央広場 (2)	68
図版39	修景工事——御諏訪池西岸支谷広場	69

第Ⅰ章 位置と環境及び事業の経緯

1. 位置と環境

史跡蓮ヶ池横穴群は、市街地の北部宮崎市大字芳士字岩永迫に位置し、この一帯は通称「蓮ヶ池」と呼称されているところである。

標高120.5mをもつ垂水台地から、宮崎平野に向かって開析された丘陵が延び出しており、丘陵端部は国道10号線により分断され、東西約1km、南北約1.3kmの独立状の丘陵地を形成している。

この丘陵地は、蓮ヶ池、中池、田池の3つの溜池で二分され、南側丘陵は北側斜面が宅地造成され、南側及び東側斜面に県指定住吉古墳（横穴）が分布している。北側丘陵は一部を除いて自然地形が良好に保たれている。

北側丘陵分水嶺より、南側斜面部が国の史跡として昭和47年7月14日に指定を受けている。この指定地内は、西側に稻荷池、中央部に湿地の谷間、そして東側に御諏訪池と南北に入り込む谷間をそれぞれに挟む舌状丘陵が延びだし、池水と丘陵の照葉樹による絶好の環境をかもしだしている。

横穴は、大筋で南方向に渓門口を開口できる斜面に構築されており、現在までに82基の横穴が確認されている。なお毎年数基の横穴が発見されており、平成元年度に5基（78号～82号）を追加している。

グルーピングについては「蓮ヶ池横穴群保存環境整備事業概報Ⅱ 1988」に記載しているが新たに発見された横穴も多いため、下記のとおりグルーピングを改訂する。

第1集団（指定地内西側の丘陵に分布）

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| A グループ（丘陵先端部西斜面に分布） | 2. 3. 4. 5. 22号横穴 |
| B グループ（丘陵先端部南斜面に分布） | 6. 7. 8号横穴 |
| C グループ（丘陵東斜面に分布） | 9. 10. 11. 12. 52号横穴 |
| D グループ（丘陵東斜面奥部に分布） | 13. 14. 15号横穴 |
| E グループ（丘陵東斜面支谷奥に分布） | 16. 17. 18. 19. 20. 21号横穴 |
| F グループ（丘陵東斜面支谷奥に分布） | 79. 80. 81号横穴 |

第2集団（指定地内中央の丘陵に分布）

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| A グループ（丘陵西斜面支谷南斜面に分布） | 70. 71. 72号横穴 |
| B グループ（丘陵東斜面に分布） | 24. 25. 26. 77号横穴 |
| C グループ（丘陵東斜面下段に分布） | 27. 28号横穴 |
| D グループ（丘陵東斜面に分布） | 23. 29. 30. 31. 35号横穴 |
| E グループ（丘陵東斜面上段に分布） | 36. 37. 38. 39号横穴 |
| F グループ（丘陵東斜面に分布） | 32. 33. 74. 76号横穴 |
| G グループ（丘陵南部支谷東斜面に分布） | 53. 78号横穴 |

第3集団（指定地内東側の丘陵に分布）

- A グループ（丘陵先端部南斜面に分布）——40. 41. 42. 43号横穴
- B グループ（丘陵先端部南斜面に分布）——44. 50. 45. 46号横穴
- C グループ（丘陵先端部南斜面に分布）——47. 48. 49号横穴
- D グループ（丘陵内支谷南斜面に分布）——55. 56. 57. 58. 59号横穴
- E グループ（丘陵内支谷南斜面に分布）——60. 61. 62. 63号横穴
- F グループ（丘陵内支谷南斜面に分布）——64. 65. 66. 67. 68号横穴

単独横穴

- 1号横穴 — 稲荷池奥の低湿地に延びた小丘陵の先端に位置。指定地からは外れる。
- 69号横穴 — 第1集団と第2集団の谷間の奥に位置する。
- 73号横穴 — 指定地内中央丘陵の西斜面の支谷に開口するが、立地条件からは今後グループ化する可能性がある。
- 51号横穴 — 御諏訪池奥の西岸に位置し、急斜面の高い位置に開口している。
- 34号横穴 — 御諏訪池奥の湿地に延びた丘陵の南端に開口している。
- 54号横穴 — 御諏訪池奥の東岸斜面に開口する。
- 74号横穴 — 指定地内東丘陵の尾根近くに開口するもので、現在のところ一番高い標高を持つ。今後グループ化する可能性がある。
- 82号横穴 — 稲荷池奥部に西側に延びた丘陵の南斜面に開口し、今後グループ化する可能性がある。

2. 事業の経緯

史跡蓮ヶ池横穴群は、従来、県指定「住吉村古墳」として知られるところであったが、昭和40年代になって、大規模開発（宅地造成）の計画が進み、急速、昭和44年に県教育委員会によって、緊急発掘調査が行われた。群墓を成す横穴墓分布の南限にあたることもあり、この緊急発掘調査の結果から、昭和46年7月17日に国の史跡指定を受けている。

昭和47年から50年にかけて、国庫補助を受けて、史跡地114,703.17m²を公有化している。その他、指定地に隣接する用地約33,000m²を市で単独買収している。

昭和59年、市制60周年記念事業として、史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備事業を決定し、同年基本構想を策定し、昭和60年基本設計を行うとともに、横穴の発掘調査（2～4号、6～8号、9～11号、12号の10基）及び見学道の一部を建設している。

昭和61年度は、12号横穴保存工事（前室内復元工事）のほか、市単独事業として幹線道路（延長L=335m、幅員W=5m）の建設を行っている。

昭和62年度は、横穴発掘調査（13～21号の9基）、横穴保存工事（2～4号、6～8号の樹脂注入による補強工事、9～11号の復元補強工事）、修景工事（12号横穴周辺植栽工事、9～11号横穴前庭部修景工事、6～8号前庭部修景工事、見学道建設（延長L=81m、幅員W=2m）

を行うとともに、市単独事業として駐車場用地買収及び造成工事、広場工事（低地広場の排水造成）、幹線道路建設工事（延長L=320m、幅員W=5m）、溜池改修工事（取水、盛土、法面工事）、都市計画公園整備事業（中央低地粗造成工事等）を行っている。

昭和63年度は、横穴発掘調査（23～33号、74号の17基）、横穴保存工事（2～4、6～8号横穴復元補強工事）、修景工事（16～21号横穴前庭広場、70～72号横穴前庭広場、73号横穴前庭広場の張り芝、四阿建設、植栽工事）。

都市計画公園整備事業では、広場工事（盛土造成工事2,248m²、排水路工事875.5m²）、御諏訪池対岸園路用地買収（1,228.60m²）、御諏訪池対岸園路建設工事（延長L=210m、幅員W=3.5m）を行っている。

平成元年度事業は、次章で述べることにする。

第Ⅱ章 平成元年度、保存環境整備事業の概要

平成元年度は、横穴の保存工事、修景工事、発掘調査を実施している。その他、都市計画公園整備事業として、御諏訪池奥部低湿地の造成工事、修景工事、御諏訪池西岸支谷の造成工事、中央谷間の植栽修景工事、園路工事、中央谷間のせせらぎ水路工事、稻荷池堤体前広場の修景工事を行っている。

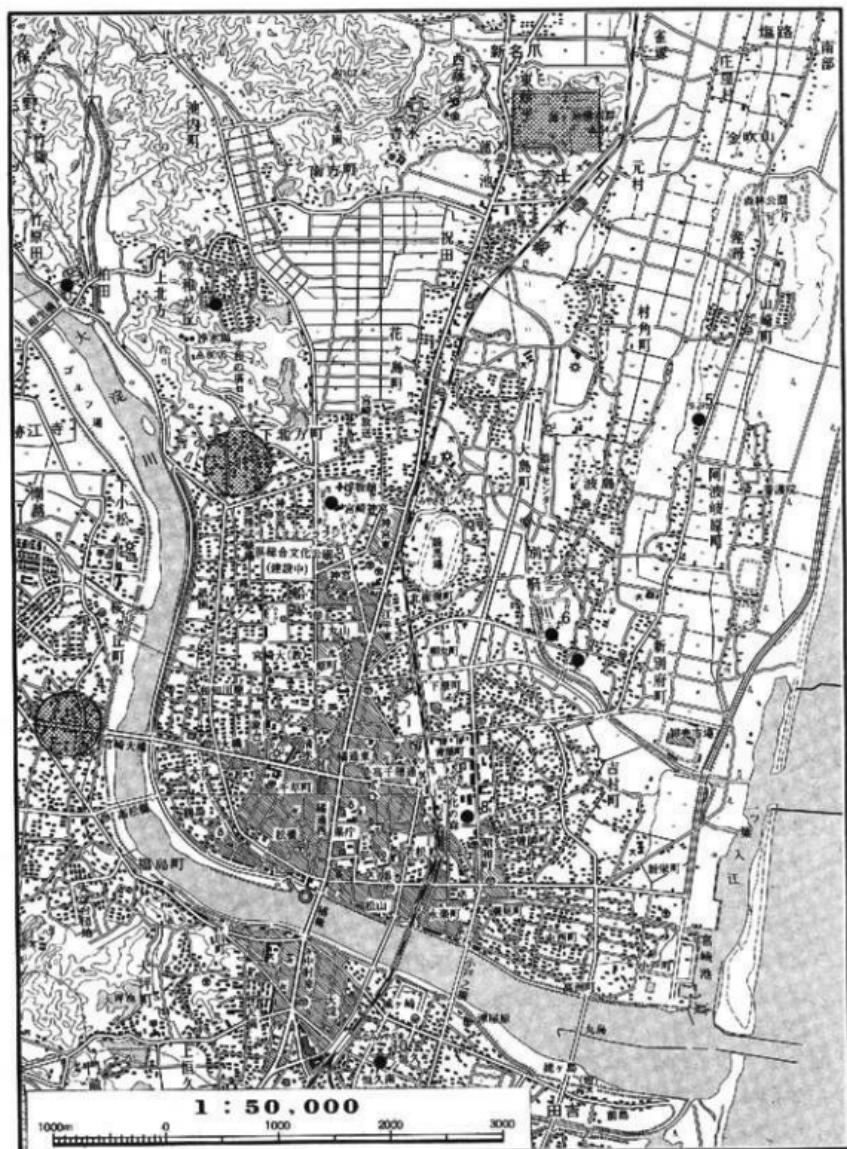
1. 横穴保存工事

中央谷間から西側に入り込む支谷の奥部東傾斜面に分布する第1集団Eグループに属する16～21号横穴、Dグループに属する15号横穴、それにCグループに属する52号横穴の保存工事を実施している。

(1) 15、16、17、18号横穴については、比較的保存状態のよい横穴であるため、羨道部の崩落部分の復元補強、横穴前面部壁の補強工事を行い玄室内部壁は樹脂含浸による強化を行った。

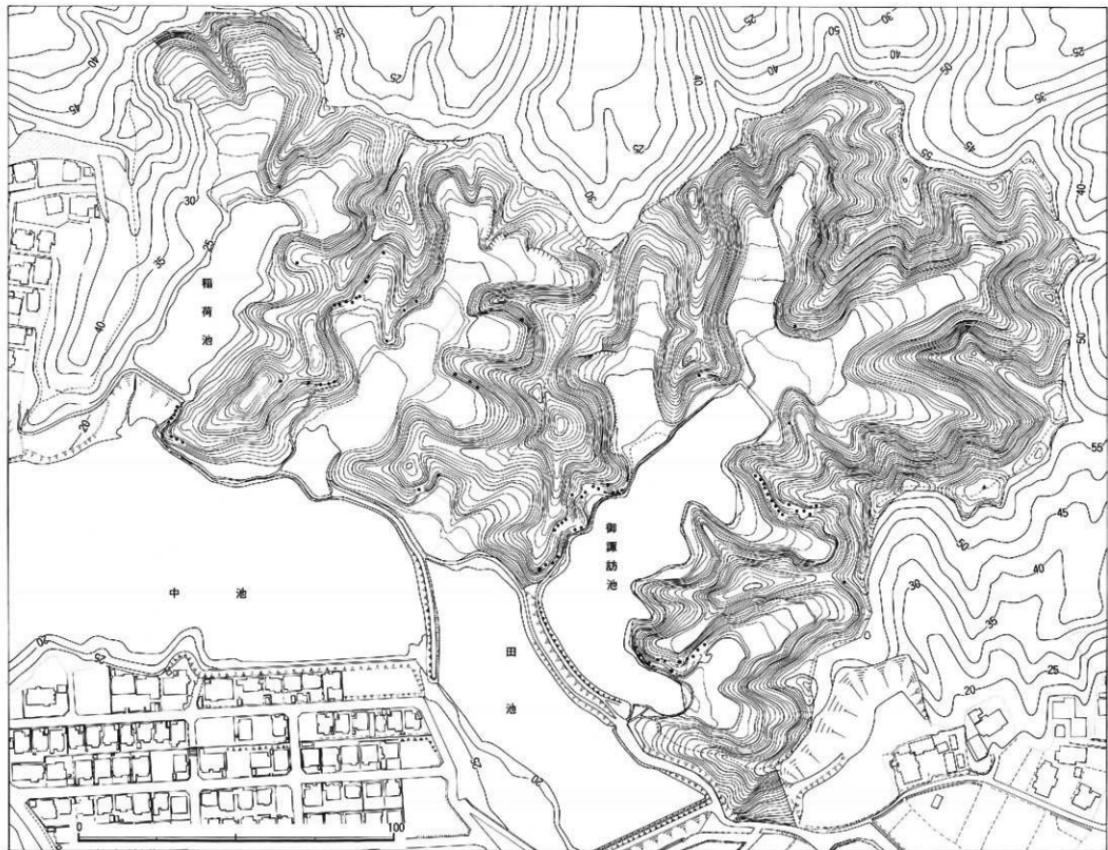
工法としては、樹脂の壁面への含浸後、下地にガラス繊維を混ぜたFRPを吹き付け、ステンレスの丸棒及び細い平板による骨組みを組んだ後、発泡ウレタンを吹き付け、さらにFRP吹き付けによる発泡ウレタン被覆を行う。その後、ステンレス金網を全面に張り付けた後、仕上げとして擬土（樹脂と横穴壁面の同質土を乾燥させ混ぜたもの）を貼り付けるものである。

(2) 19、20、21号横穴は、羨道、玄室部ともに崩落が著しく、復元することは困難なため、玄室部に砂を詰めた土のう袋を積み、前面部をステンレス骨組みにより補強し、発泡ウレタン吹き付け、さらにFRP吹き付けによる被覆を行っている。その後、ステンレス金網を全面に張り付けた後、擬土を貼り付け、羨門部は河原石を積み上げ石閉塞の状況を表現した。

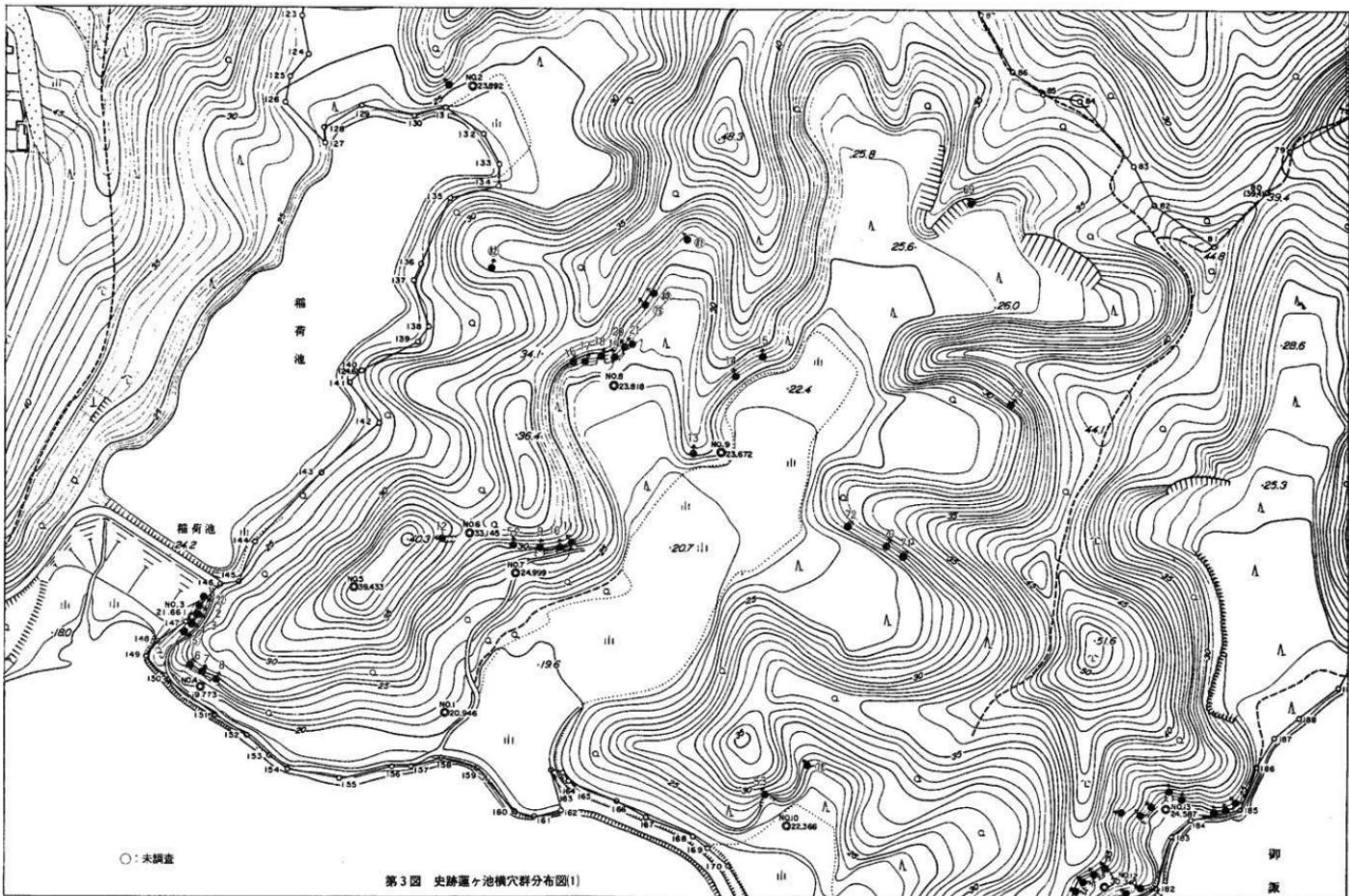


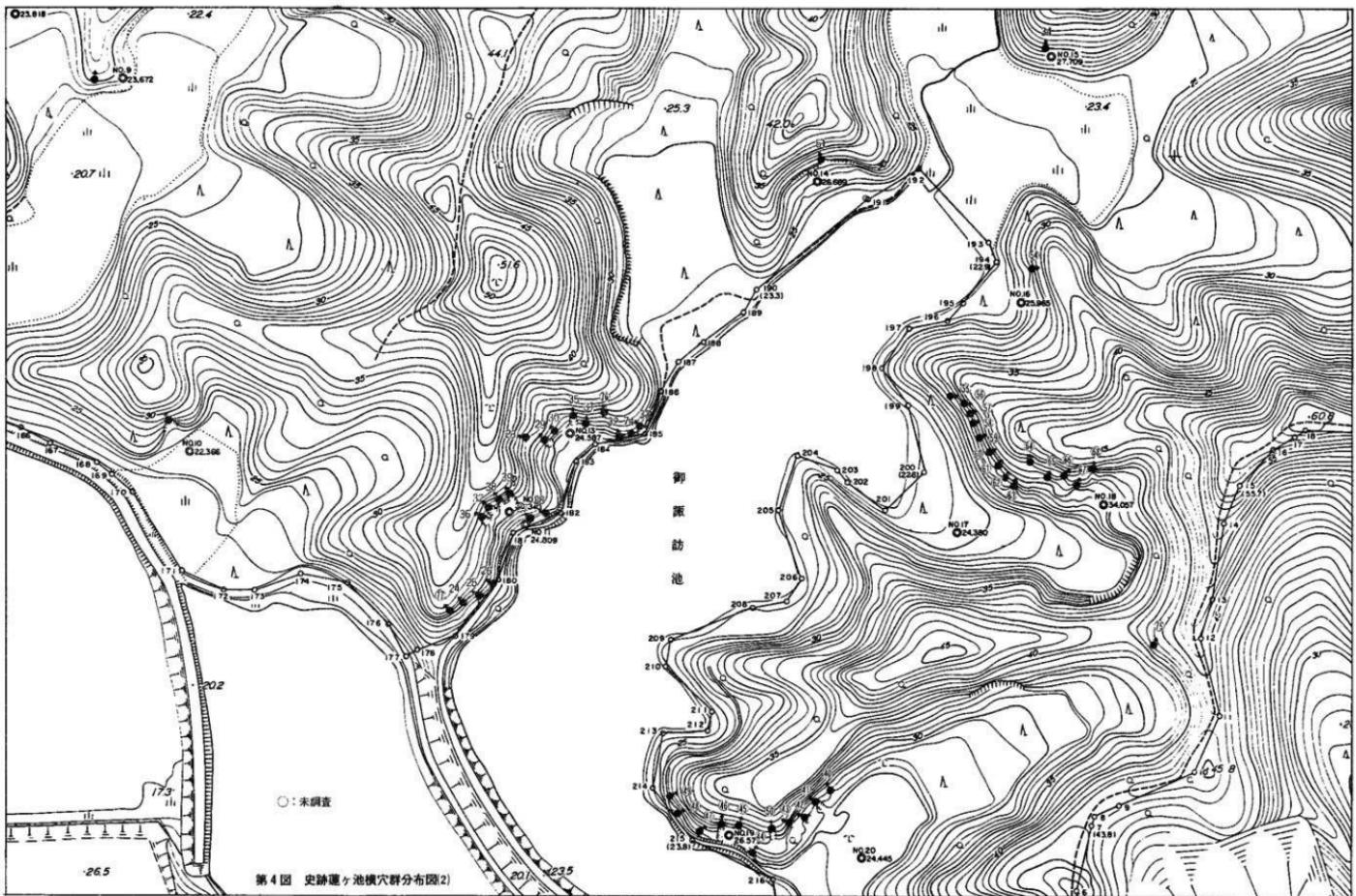
- | | | | | |
|-----------|---------|----------|----------|----------|
| 1. 下北方古墳群 | 2. 柏田貝塚 | 3. 池内横穴群 | 4. 大淀古墳群 | 5. 石神遺跡 |
| 6. 浮之城遺跡 | 7. 桃遺跡 | 8. 浄土江遺跡 | 9. 船塚古墳 | 10. 恒久古墳 |

第1図 史跡蓮ヶ池横穴群位置図



第2図 史跡蓮ヶ池横穴群全体地形図





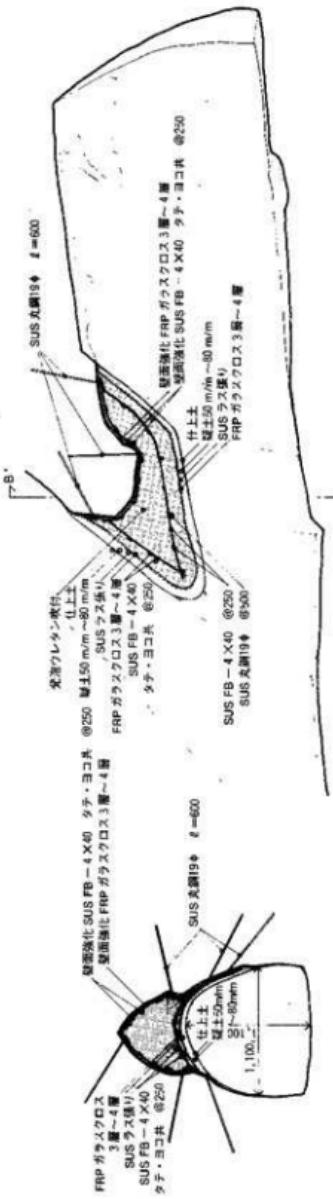
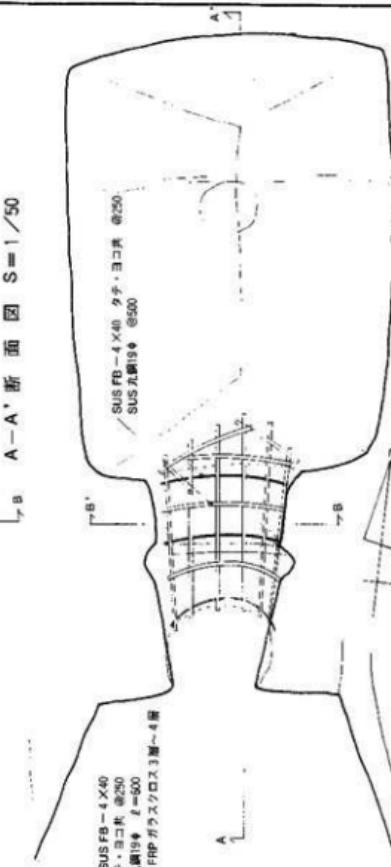
第4図 史跡薄ヶ池櫛穴群分布図(2)

第5図 保存工事図面(1) 第15号横穴造構築元図

平面図 S = 1 / 50

構穴入口周辺斜面強化図 S = 1 / 50

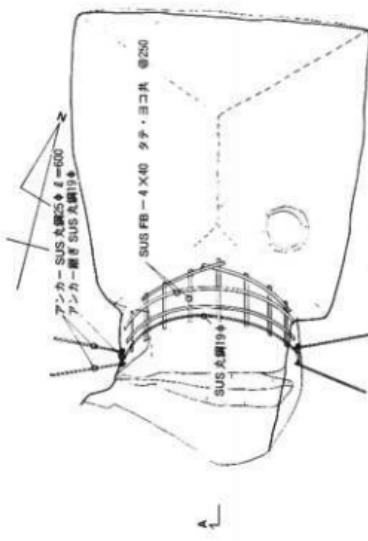
B - B' 断面図 S = 1 / 50



第6図 保存工事図面(2) 第16号横穴遺構復元図

説明 A-A' 1/50

平面図 S=1/50



B-B' 断面図 S=1/50

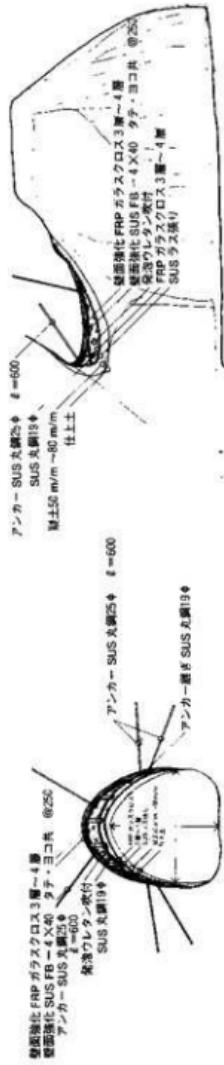


第7図 保存工事図面(3) 第17根穴灌漿復元図

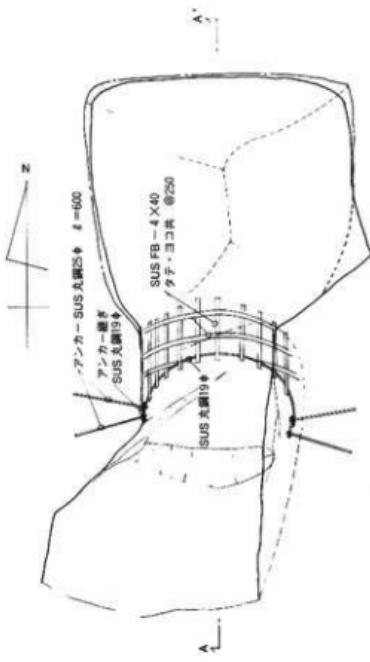
平面図 $S = 1/50$ 

A'

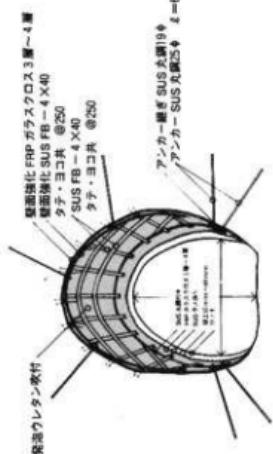
A

B-B' 断面図 $S = 1/50$ 

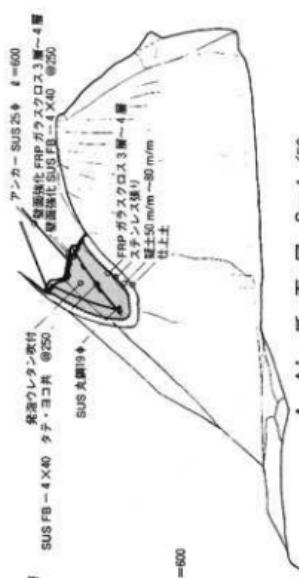
平面図 S = 1 / 50

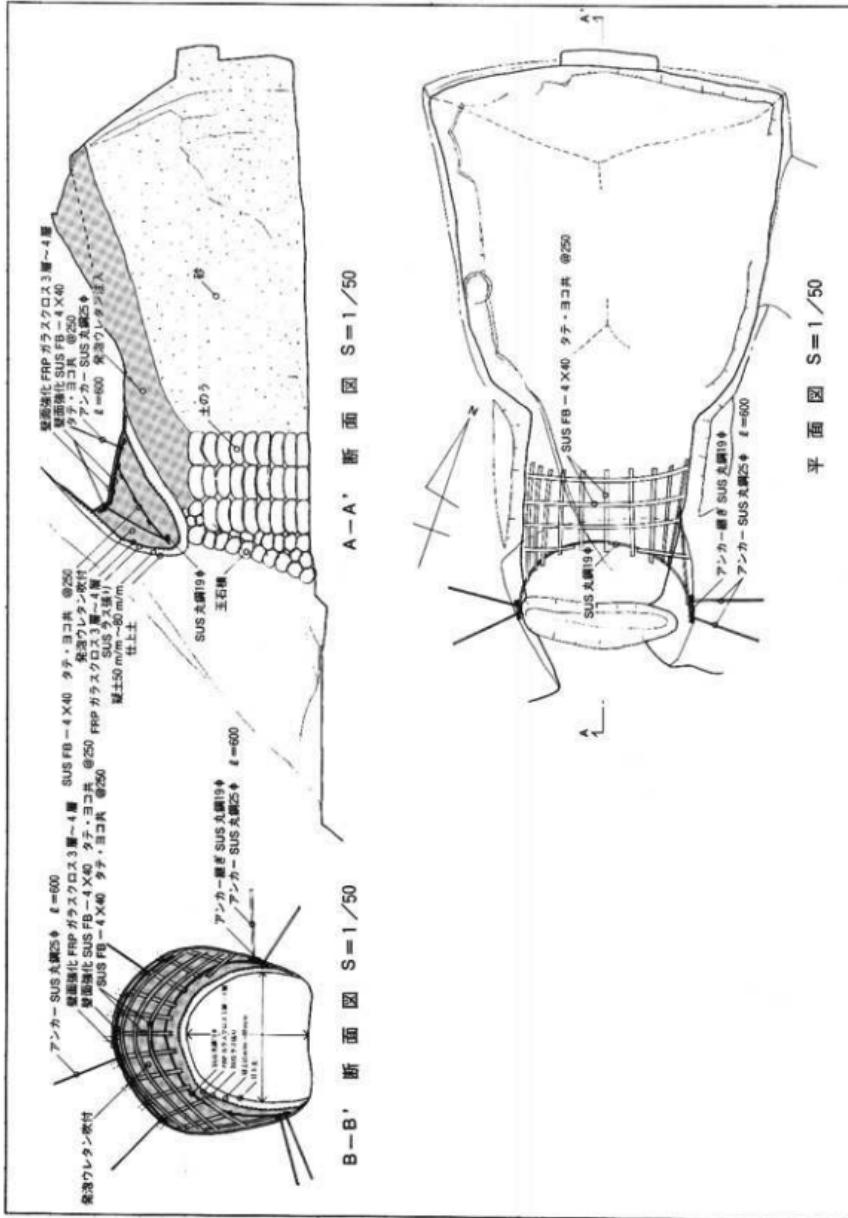


A-A' 断面図 S = 1 / 50



B-B' 断面図 S = 1 / 50





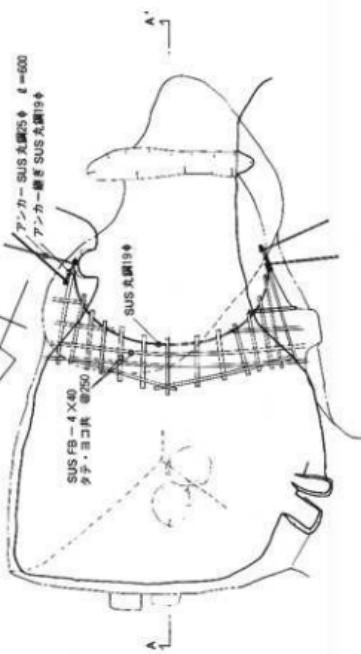
A-A' 断面図 S=1/50

S = 1 / 50

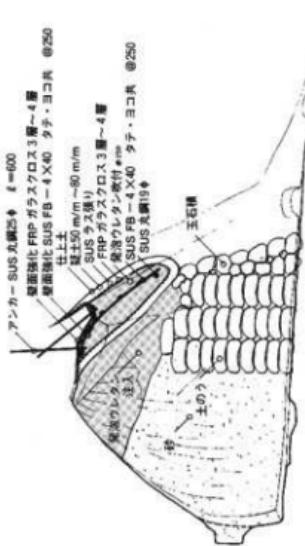
第9図 保存工事図面(5) 第19号横穴道構復元図

第10図 保存工事図面6) 第20号横穴復縫復元図

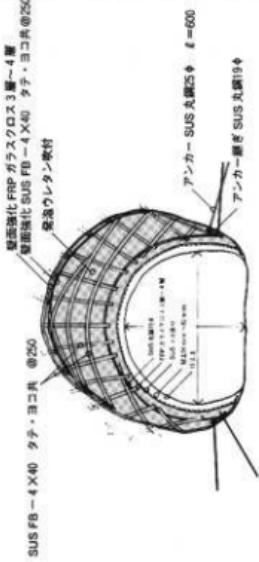
平 面 図 S = 1 / 50

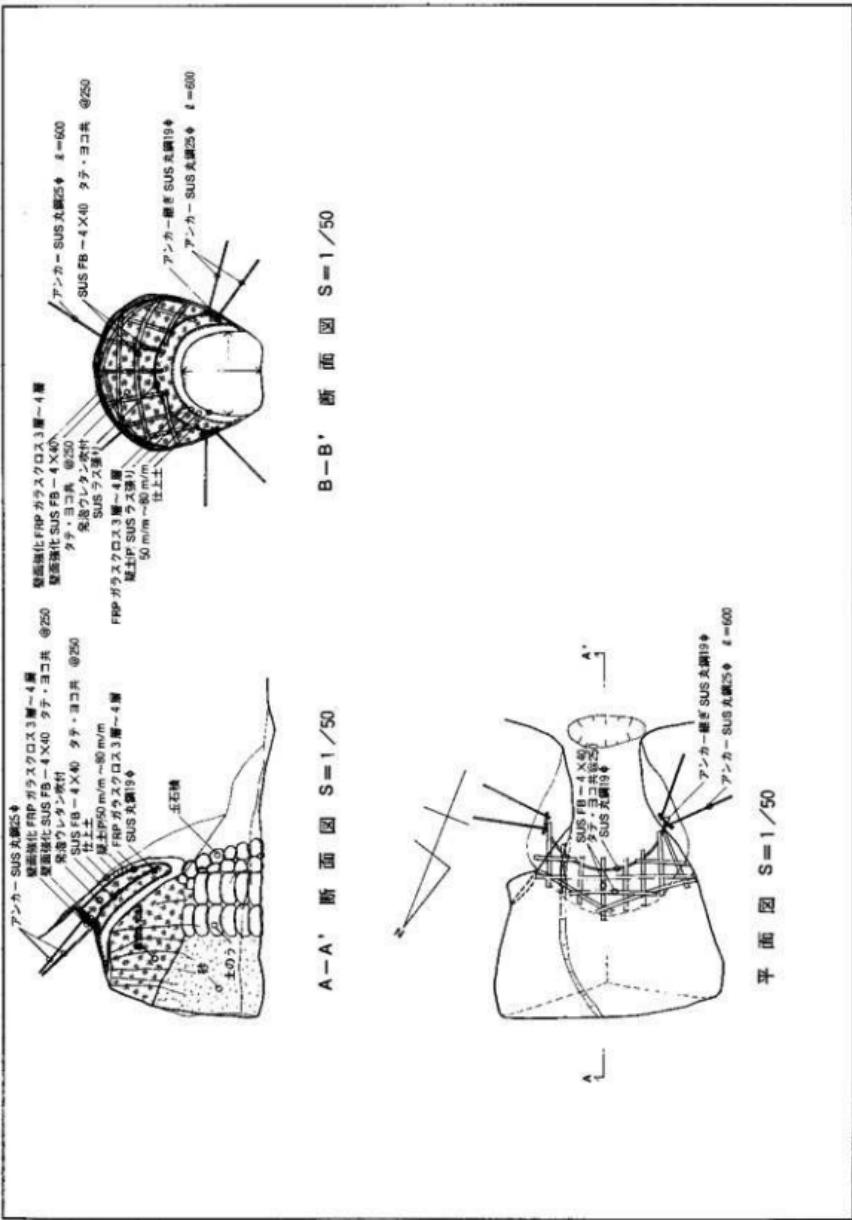


A-A' 断面図 S = 1 / 50



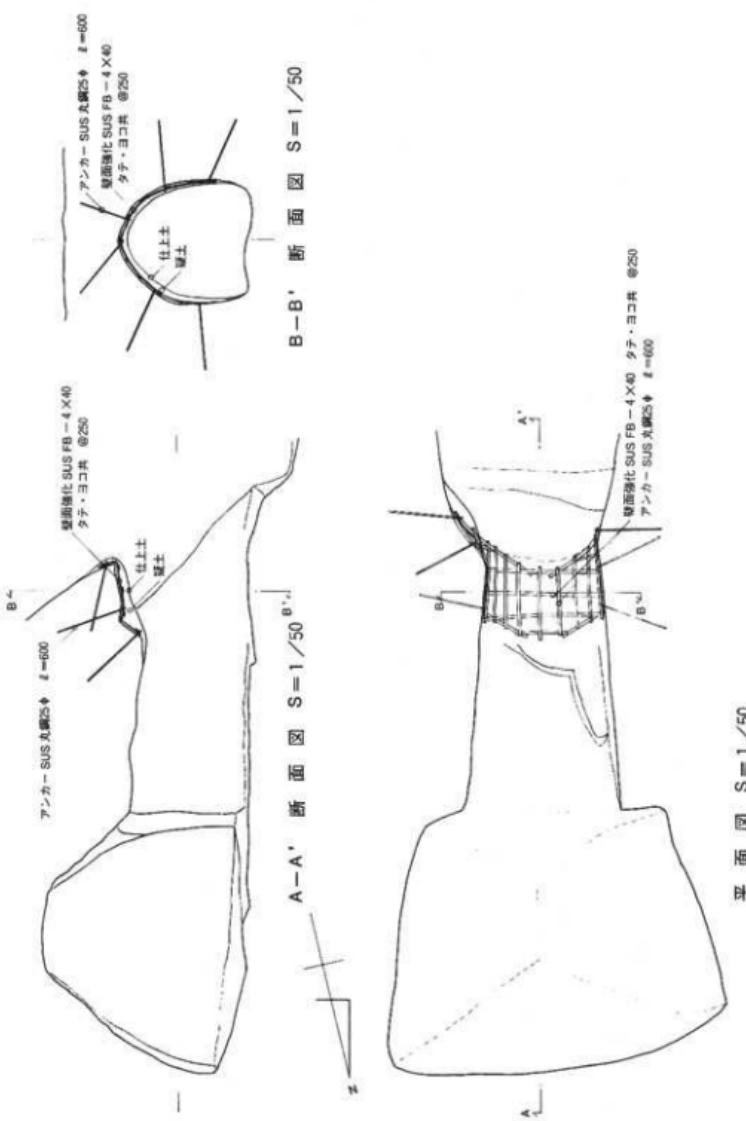
B-B' 断面図 S = 1 / 50





第11圖 保存工事圖面(7) 第21号横穴道構造圖

第12図 保存工事図面(8) 第52号構穴垂樁復元図



- (3) 52号横穴は、極めて保存状態の良い横穴であるため、外部に露出する羨道前部の補強にとどめている。

2. 修景工事

- (1) 中央谷間の最奥部、東側に入り込む支谷は、63号横穴の分布する前庭広場であり、昭和63年度に粗造成を行い、今年度は、整地、芝生舗装工事、植栽工事（ヤマザクラ外）、丸太ベンチ（4基）を設置している。
- (2) 12号横穴周辺部の伐開、植栽工事
- (3) 9号～11号横穴前庭部から16号から21号横穴の分布する支谷に通ずる見学道の階段工事。
- (4) 中央谷間と御諏訪池に挟まれて延びだす丘陵の尾根部に木製階段を伴う見学道を設置している。

3. 都市計画公園整備事業

建設省の補助を受けて行う都市計画公園整備事業では、本年度は、下記事業を行っている。

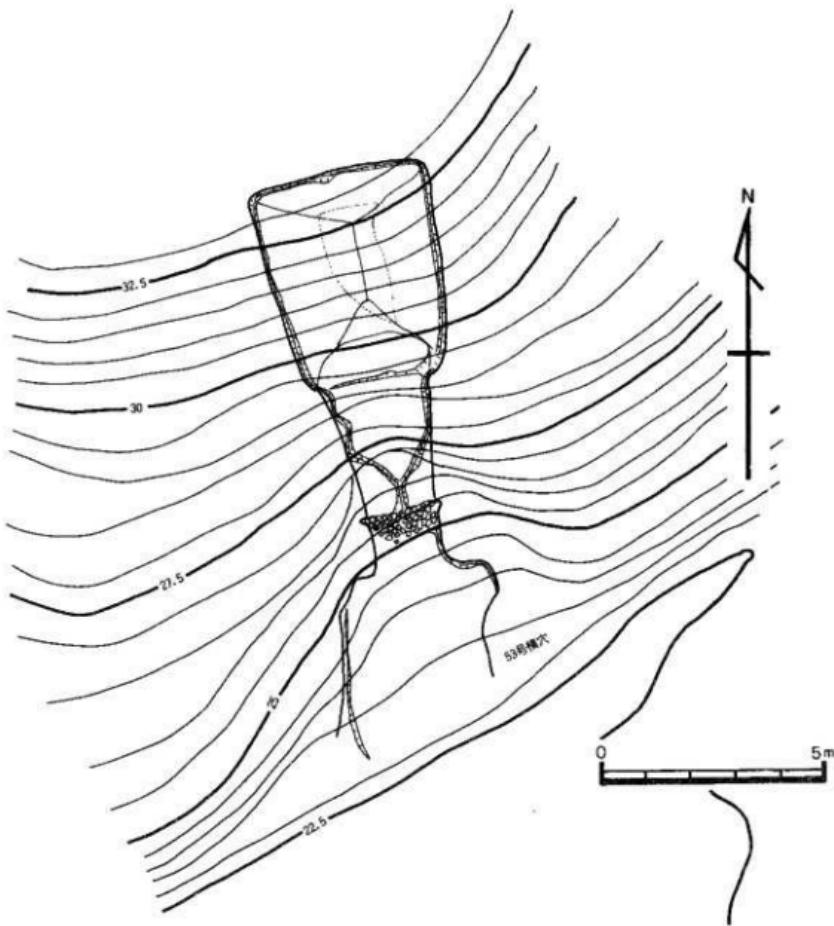
- (1) 御諏訪池奥部低湿地の敷地造成工事、排水路工事（509.3m）、芝生舗装（2,644.3m²）、植栽工事（ヤブツバキ外）
- (2) 中央谷間を蛇行して継続するせせらぎ水路工事（205m）、芝生舗装（756m²）、植栽工事（イロハモミジ外）
- (3) 御諏訪池西岸支谷の敷地造成工事、排水路工事（142m）
- (4) 中央谷間の芝生舗装（2,678m²）、園路工事（延長L=200m、幅員W=3m）、植栽工事（ヤマザクラ外）、水のみ場（2基）
- (5) 稲荷池堤体前広場の芝生舗装（640m²）、植栽工事（マテバシイ外）

第Ⅲ章 発掘調査の概要

1. 第2集団Gグループ（53・78号）

史跡地中央部に、北方向に入り込む谷間と東に位置する御諏訪池との間に南方向に延びだす丘陵に分布する各小グループをグルーピングして第2集団としている。

53号横穴は、丘陵南端部中央に湾曲して入り込む支谷の東斜面に位置し、従来は単独横穴としてとらえていたが、今年度の調査により新たに53号の北東に離れて1基が確認され、この横穴を78号横穴としてGグループを設定することとした。しかし、78号横穴の発掘調査は行わなかった。



第13図 53号横穴立地図

(1) 53号横穴 (第14図) (図版1, 2, 3)

この横穴は、昭和44年時の調査でも開口していることが知られていたが未調査の横穴である。大型の横穴であり羨道部及び玄室天井部の1部の崩落を除いて保存状態の良い横穴である。

玄室床面標高は、23.4m内外で、主軸方向はN-11°-Wを示す。前庭部は墓道から両側に袖を持ち、やや変形した長方形形状をなす。墓道は短く閉塞石を伴う羨門部に至る。羨門部は、袖をもつ幅約60cm、長さ1.8m、深さ約15cmの閉塞溝を有し閉塞石が残存する。

羨道部は、全面部幅1.5m、奥部幅2.3mの台形状の床面をなし、玄室部両側に配された排水溝が延び、羨道中央部においてすばまりはじめY字状を呈する形となり、1段下がる閉塞溝へと流れる。羨道部天井高は1.8mで、高いアーチ形をなす。玄室は、妻入りタイプで、入口幅2.5m、奥部幅3.8m、長さ4.5mのやや奥広がりの長方形状の床



図版1 53号横穴



図版2 53号横穴玄室入口部

面を呈し、天井部は、一部崩落しているが現高で2.4mを測り、棟稜線を残した「寄棟造り」構造である。

天井部及び側壁部の1部に薄い剥落を見受けるものの良く原形をとどめている。また、側壁部には規律性のある縦列の調整痕が見受けられるとともに床面周囲には、幅約10cm、深さ約8



図版3 53号横穴側壁調整痕

cmの排水溝が巡らされている。

53号横穴出土遺物（第15図）（図版13）

羨道、墓道、前庭部から出土遺物があり、玄室からは出土しなかった。須恵器、鉄器及び装身具としての切子玉2点が見受けられる。

【須恵器】

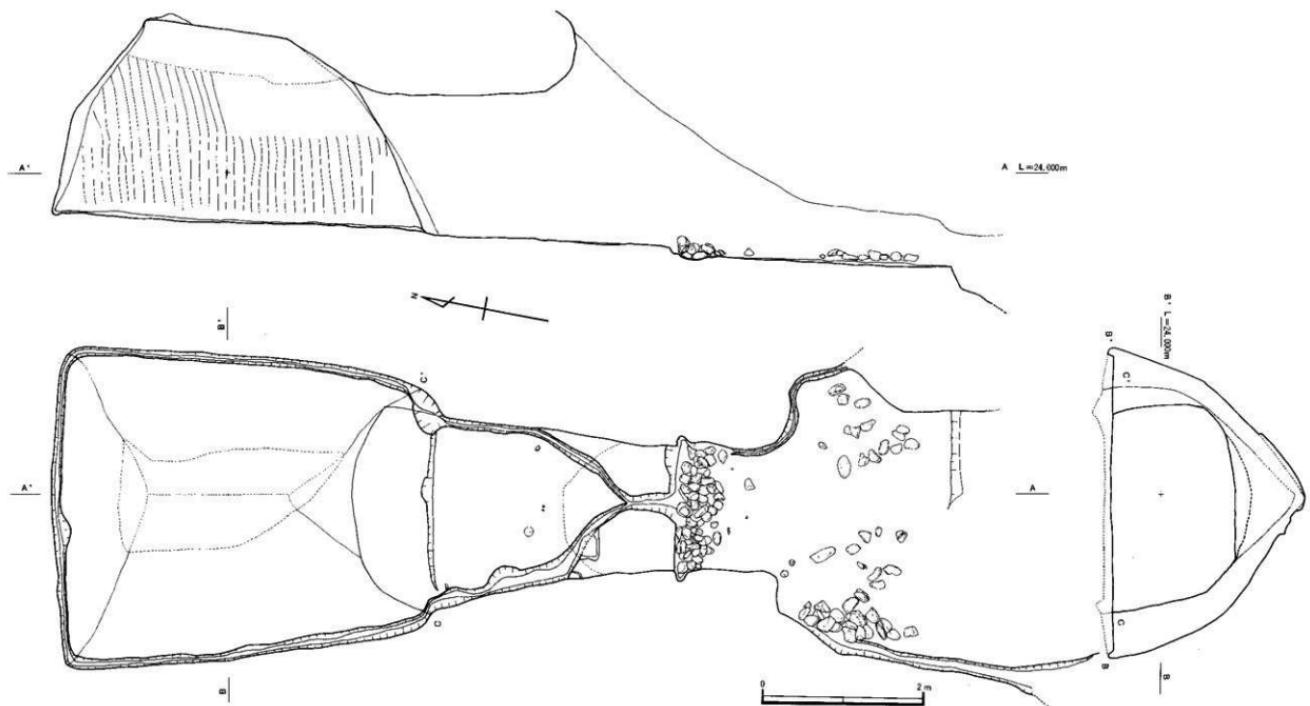
坏身（1. 2）

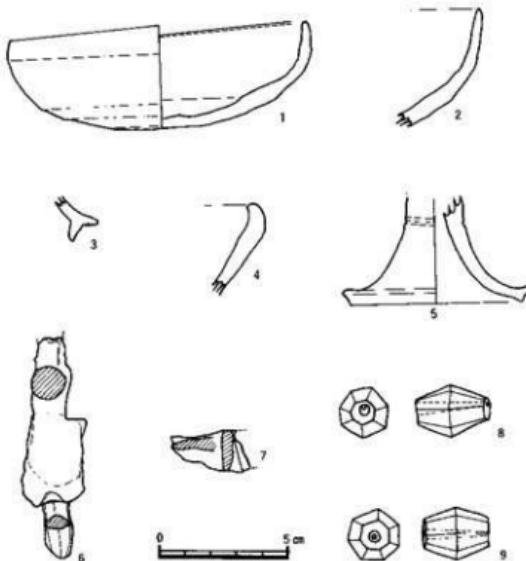
1は、羨道中央部で出土したもので、丸みをもった底部から体部へとゆるやかに立ち上がり、口縁部で屈曲し内湾気味に立ち上がる。口縁部がわずかに肥厚する。口径11.45cm、器高4cmで底部はヘラ切り離しである。体部、口縁部ともにヨコナデ調整が施され、底部内面には仕上げナデが見受けられる。胎土に白灰色の微粒子とともに6mm大の砂粒が少量含まれ、焼成は良好で青灰色を呈する。

2は、丸みをもった底部から体部においてゆるやかに屈曲し、口縁部は外開きに立ち上がる。底部はヘラ削り、体部から口縁部はヨコナデ調整、内面もヨコナデ調整が施されている。胎土に白砂粒が含まれ、焼成は良好で灰色を呈する。

坏蓋（3）

口縁部に受け部のかえりをもち、かえりはやや高く口縁面より、0.6cm突出する。ヨコナデ調整が施され、胎土に白い微砂粒を含み、焼成は良好で黒灰色を呈する。





第15図 53号横穴出土遺物実測図

椀（4）

口縁部のみで器種は、はっきりとしないがおそらく椀になるものと思われる。体部は、外開きに立ち上がり、口縁部は肥厚し、端部は短く内湾する。胎土に白砂粒を含み、焼成は良好で、やや黒灰色を呈する。

高坏（5）

ミニチュアの高坏の脚部と思われ、前庭部左袖部から出土している。脚中央部に1条の沈線が巡り裾部は大きく外反気味に開き端部はわずかに反りをもち、透しは見受けられない。全てナデ調整で、胎土に白微粒子を含み、焼成は良好で灰色を呈する。据部径は6.7cmで現在高4cm。

〔鉄器〕（6，7）

6は、墓道部から出土しており、器種は鉄鎌のように思えるが、体部断面が円形を成すことから不明である。

7は、墓道部の出土であり、刀子の先端部と思われる。

〔菱飾品〕

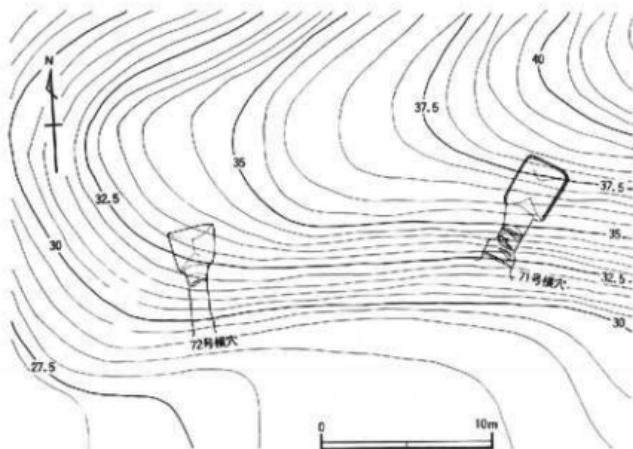
切子玉（8，9）

墓道より出土である。無色透明の水晶製で、断面は、8，9ともに7角形をなし、稜は良く残る。8は、口径最大径1cm、体部最大径2cmで長さ2.5cm、穿孔は人口径0.4cmで、出口径

0.12cmと先細りとなる。9は、口径最大径1.1cm、体部最大径2cmで、長さ2.4cm、穿孔は入口径0.45cmで、出口径0.2cmと先細りとなる。

2. 第2集団Aグループ(70, 71, 72号)

中央谷間の東側に入り込む支谷の北側に西方向に延びる舌状丘陵の南側斜面に開口するグループで、昭和62年に確認された横穴である。



第16図 71号, 72号横穴立地図

70号横穴は、3基並列する中央に位置する横穴であるが、構造自体不明の状態であったため、発掘調査を中止した。

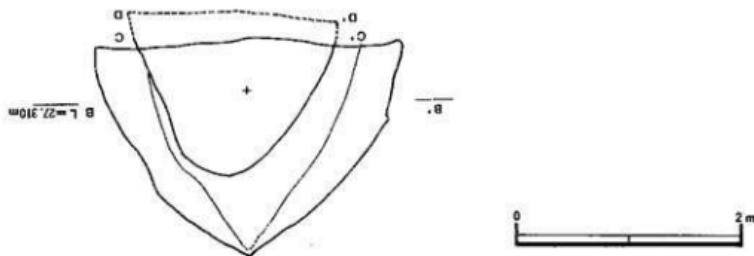
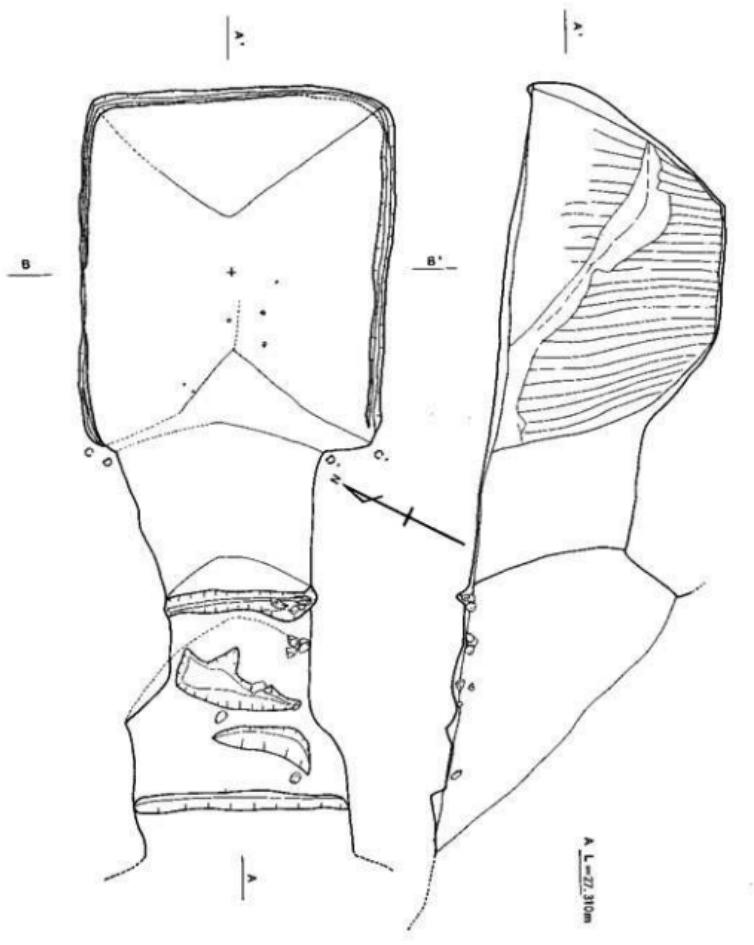
(1) 71号横穴(第17図)(図版4、5、6)

70号横穴の東側に位置し、3基中最も標高の高い位置に構築された横穴である。

羨道及び玄室側壁部に1部の崩落を見受けけるが、全体的に保存状態及び形態的にも良好な横穴である。小範囲の前庭部を持ち、羨道部は1段高くなり、全面部幅1.9m、閉塞溝寄りで1.25m、長さ1.8mで中央部で両側に袖を持つ。羨門部に短い袖を持つ幅20cm、長さ1.4



図版4 71号横穴



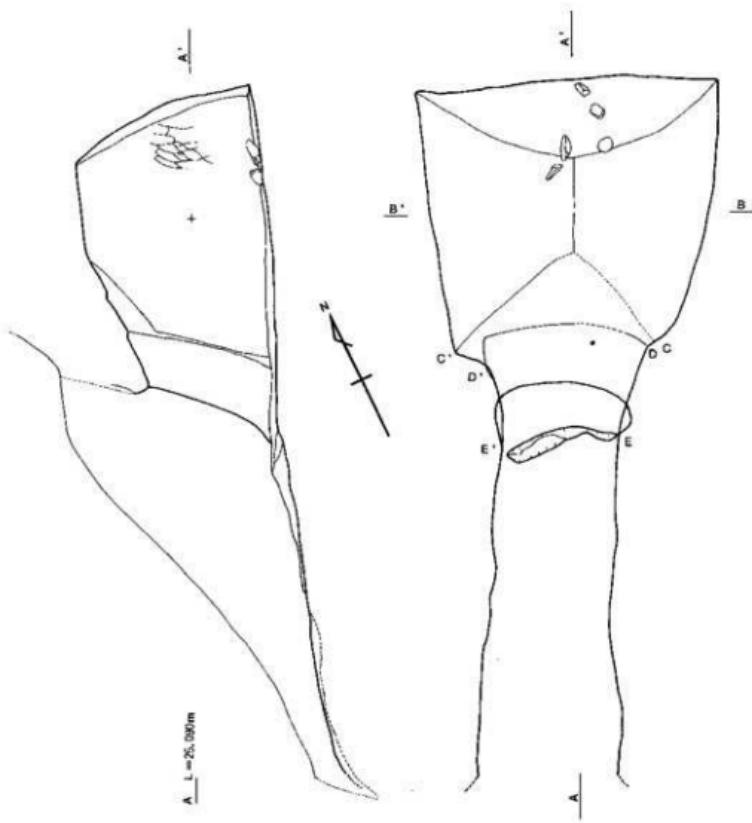
第17图 71号横穴实测图



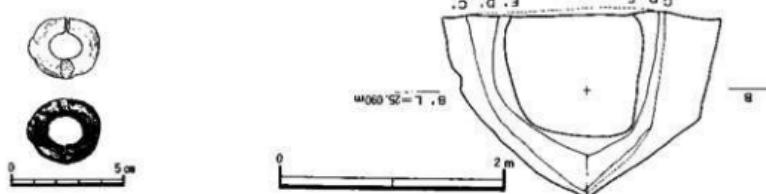
図版 5 71号横穴玄室及び奥壁



図版 6 71号横穴側壁調整痕



第18図 72号横穴実測図



第19図 72号横穴出土遺物実測図及び図版

m、深さ18cmの閉塞溝を持ち閉塞溝に閉塞石の一部が残存する。羨道部は、入口幅1.3m、玄室幅1.85m、長さ1.25mの床面を持ち天井高は1.35mでアーチ形を成し、妻入りタイプの玄室に至る。玄室床面の標高は、26.8m内外で、主軸方位は、N-62°-Eを示す。玄室は、入口幅2.5m、奥壁部幅2.6m、長さ3.2mのやや方形に近い床面を持ち天井高1.9mの「寄棟造り」構成を成す。玄室床面両側壁部及び奥壁部に幅10cm、深さ0.5cmの排水溝が巡らされている。また、側壁部には調整痕が顯著に残っている。

71号横穴出土遺物

完形品となる出土遺物はなく玄室より6点、羨道より1点の土師器小片が出土している。

(2) 72号横穴(18図)(図版7、8、9)

70号横穴の西側に離れて位置し、最も低い標高に構築された横穴である。羨道部天井から玄室前半部天井及び側壁は崩落しており玄室奥部は原形をとどめている状況である。前庭部と思われるところではなく、それに替わって長い墓道を有している。墓道部は前部幅1.25m羨道部寄りで1.0m、長さ3mの床面を持つ。羨門部に幅15cm、長さ1m、深さ5cmの閉塞溝をもち、閉塞石の残存は見受けられなかった。

羨道は入口幅1m、玄室部幅1.35m、長さ0.7mの床面を持ち、天井は高さ1.1mでアーチ形をなし、やや妻入りタイプの玄室に至る。

玄室床面の標高は、24.4m内外で、主軸方位は、N-25°-Eを示す。玄室は、入口幅1.8m、奥壁部幅2.7m、長さ2.4mのやや台形状の床面を持ち天井高は現存高で1.6mのやや鈍角を成す「寄棟造り」構造を成すものと思われる。玄室内壁面には顯著な調整痕は見受けられない。

72号横穴出土遺物

羨道と玄室との境において金環1個が出たほか、墓道先端部において、土師器片1点が出土しているのみである。

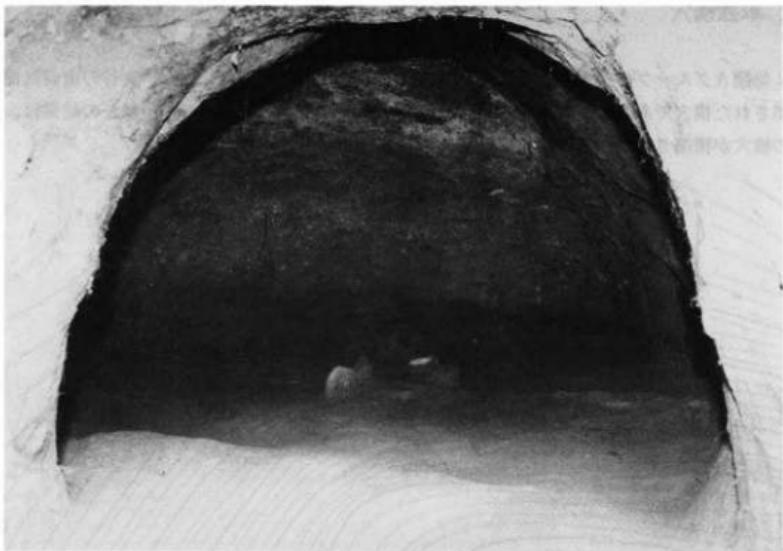
〔装身具〕(第19図)

金環

玄室入口部で出土している。銅地に金色の箔が張られた金環であり、一部に金銅箔が残っている。全面綠青が著しい。外径で、長径3.1cm、短径2.7cm、内径で長径1.4cm、短径1.1cm、断面径は、長径0.9cm、短径0.6cmを測る。



図版7 72号横穴



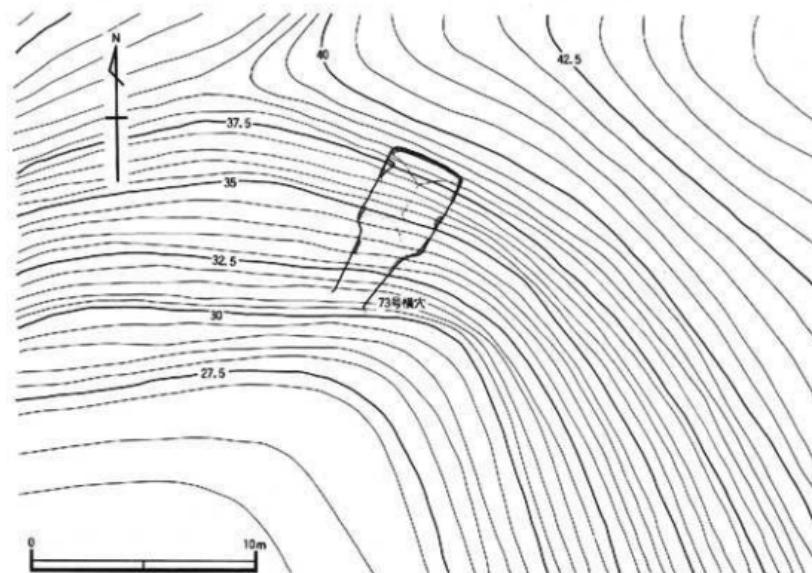
図版 8 72号横穴玄室



図版 9 72号横穴玄室及び奥壁

3. 単独横穴

第2集団Aグループの横穴の分布する丘陵の北側にさらに支谷が入り込み、支谷の南側斜面に構築された横穴であり、現在のところ73号横穴1基のみが開口しているが、精査の結果は、数基の横穴が構築されている可能性が見受けられる。



第20図 73号横穴立地図

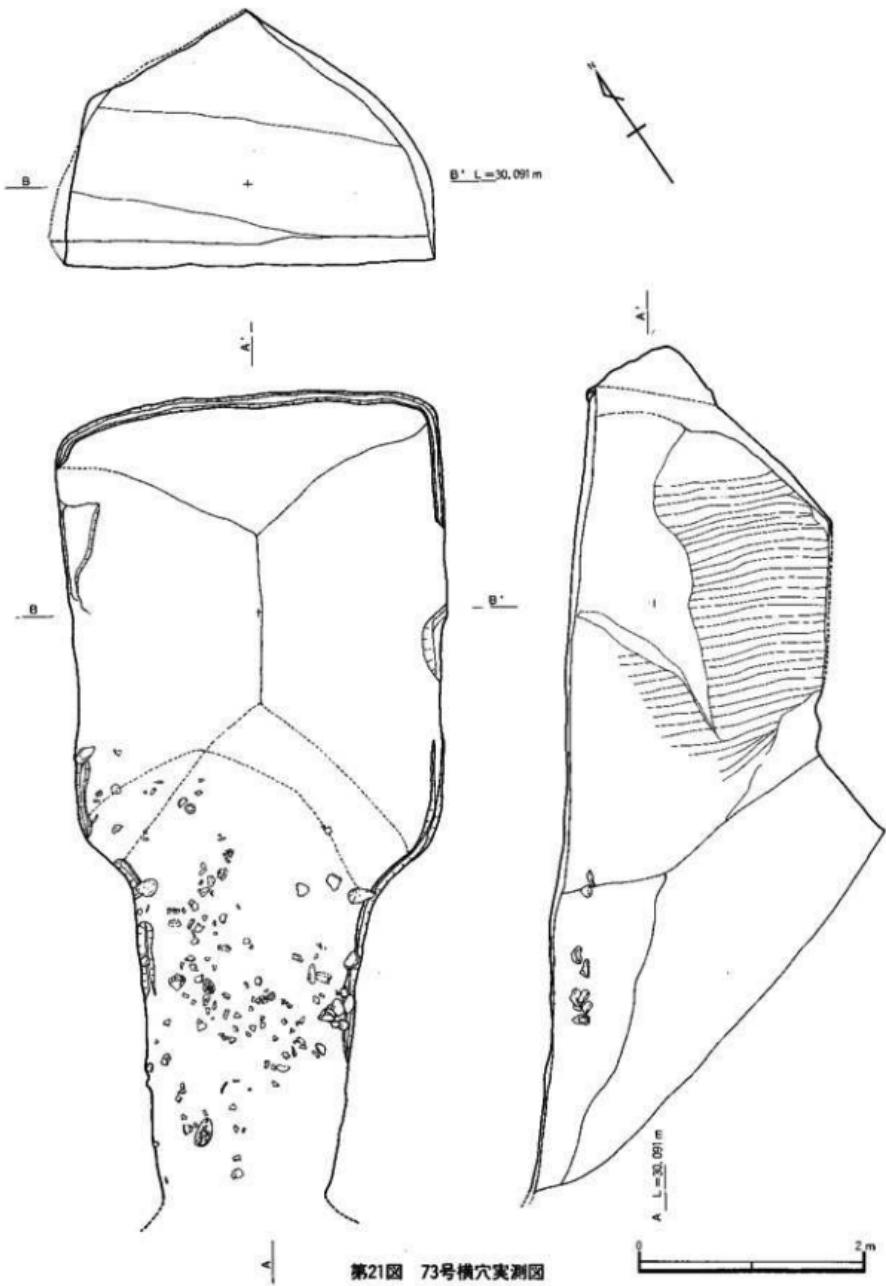
(1) 73号横穴（第21図）（図版10、11、12）

この横穴は丘陵斜面中腹に構築された横穴であり、急斜面に構築された関係もあり、羨道部から玄室前面部にかけて天井の崩落が著しい。なお、玄室奥部にも著しい崩落が見受けられる。

前庭部はなく、閉塞石は散乱し、閉塞溝も見受けられず、墓道と羨道の区別もできにくい状況にある。墓道及び羨道部は、前部幅1.5m、奥部幅2.2m、長さ2.8mの床面を



図版10 73号横穴



第21図 73号横穴実測図



図版11 73号横穴玄室



図版12 73号横穴玄室及び奥壁

持ち、妻入りタイプの玄室に至る。

玄室床面の標高は、29.3m内外で、主軸方位は、N-33°-Eを示す。玄室は、人口幅2.6m、奥壁部幅3.3m、長さ4.3mのほぼ長方形形状の床面を持ち天井高は現存高で2.25mの「寄棟造り」構造をなすものと思われる。

玄室内両側壁部及び奥壁部に排水溝が巡らされており、奥壁部の排水溝が顕著に残されている。壁面も崩落が著しいが、残存部分には調整痕が見受けられる。

73号横穴出土遺物

構造自体は崩落が著しく、保存状態は悪いが、玄室前部及び羨道、墓道から多くの出土遺物が見受けられた。

須恵器、土師器、鉄器、それに馬具の出土があり、中でも、玉珠の出土は注目されるところである。

【須恵器】(第22図) (図版14)

壺蓋(1~6)

壺蓋は全て口縁端部に受け部のかえりをもつもので1、2は天井部にツマミを有し、3は有しない。4~6は、破片のためツマミの有無は解らない。

1は、玄室左前部から出土したもので、天井部に宝珠状のツマミを有し、口径10.35cm、受け部径8.2cm、器高3.1cmで内面のかえりは短く口縁部とほぼ同じ高さである。体部から口縁部はヨコナデ調整が施され、天井部内側及び口唇部に仕上げナデが見受けられる。胎土に細砂粒を含み焼成は良好で灰白色を呈する。7の壺身とセットになるものと思われる。

2は、玄室左前部から出土したもので、天井部にボタン状のツマミを有し、口径9.45cm、受け部径7.6cm、器高1.6cmで、内面のかえりは短く、わずかに口縁面より突出する。口縁部はヨコナデ、体部にヘラ削りが見受けられ、天井部はヨコナデ調整が施されている。天井部内面は、ヨコナデの後仕上げナデが施されている。胎土に細砂粒を含み、焼成は良好で青灰色を呈する。

3は、玄室左袖部から出土したもので、天井部にツマミを有しない。口径10.2cm、受け部径8.45cm、器高3.1cmで内面のかえりは0.1cmとわずかに口縁面より突出する。口縁部から体部はヨコナデ調整、天井部はヘラ切り離しが見受けられる。内面は全てヨコナデ調整が施されている。胎土に細砂粒を含み、焼成は良好で青白色を呈する。

4は、羨道中央部から出土した破片である。推定口径14.1cm、推定受け部径11.8cmで、内面かえりは低く、0.2cm口縁部から突出する。内外面とも口縁部から体部はヨコナデ調整、天井部の一部にヘラ切り離しが見受けられる。胎土に細砂粒が含まれ焼成は良好で、白灰色を呈する。

5は、羨道左奥部から出土した破片である。内面かえりはやや高く0.6cm口縁面より突出する。内外面ともヨコナデ調整が施されている。胎土に細砂粒を含み、焼成は良好で、青灰色を呈する。

6は、羨道奥部から出土した破片である。内面かえりは肥厚し、わずかに口縁部より突出す

る。口縁部から体部は、内外面ともにヨコナデ調整で天井部の一部にヘラ切り離しが見受けられる。胎土に細砂粒を含み、焼成は良好で灰色を呈する。

坏身（7～11）

7は、玄室入口から出土したもので、口径8.6cm、器高3.3cmで、底部はやや平底をなし、底部から体部にかけて屈曲して立ち上がり、器厚を薄くして口縁部は、やや外反気味となる。底部は、ヘラ切り離し、体部から口縁部は内外面ともにヨコナデ調整が施され、内面底部に仕上げナデが見受けられる。胎土に細砂粒を含み、焼成は良好で青灰色を呈する。1の坏蓋とセットになるものと思われる。

8は、羨道左前部から出土したもので、口径11.7cm、底径7.4cm、器高3.9cmで底部は平底をなし、体部はゆるやかに立ち上がり、口縁部に至って、器厚は薄くなり屈曲して立ち上がる。底部はヘラ切り離し、体部から口縁部は、内外面ともにヨコナデ調整が施され、内面底部に仕上げナデが見受けられる。胎土に細砂粒を含み、焼成は良好で、青灰色を呈する。

9は、羨道左奥部から出土した破片である。推定口径13.6cm、底部は平底をなすものと思われ、体部は、ゆるやかに立ち上がり口縁部に至って屈曲して立ち上がり口唇部はわずかに外反する。底部から体部はヘラ削り、口縁部及び内面は、ヨコナデ調整が施されている。胎土に細砂粒を含み焼成は良好で青灰色を呈する。

10は、羨道左奥部から出土した破片である。推定口径12.1cm底部に一部ヘラ印が見受けられる。体部はゆるやかに立ち上がり口縁部に至って屈曲してやや外反気味に立ち上がる。底部から体部はヘラ削り、口縁部は、ヨコナデ調整、内面底部に仕上げナデが見受けられる。胎土に細砂粒を含み焼成は良好で灰色を呈する。

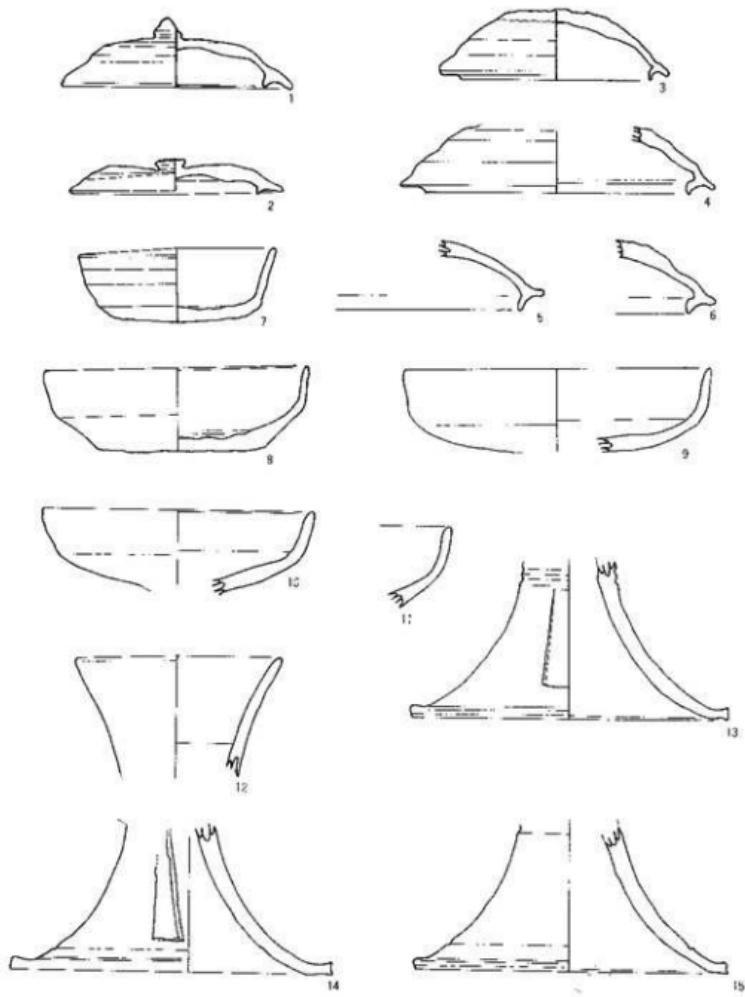
11は、羨道左奥部から出土した破片である。体部から口縁部にかけて湾曲気味に立ち上がる。体部にヘラ削りが見受けられ口縁部は内外面ともヨコナデ調整である。胎土に細砂粒を含み焼成は良好で灰色を呈する。

壺（12）

羨道左奥部から出土した壺口縁部である。口径8.3cm、現存底径5.4cmで、直線的に開き長頸の広口壺の感を持つが体部は不明である。内外面ともにヨコナデ調整が施されている。胎土に微砂粒を含み焼成は良好で黒灰色を呈する。

高坏（13～15）

13は、羨道右中央部、14、15は羨道左前部から出土した高坏脚部で、底径は13が14.2cm、14が14.4cm、15が推定13.9cmである。いずれも脚上部は細かく2条の沈線が巡り、裾は大きくラッパ状に開き裾底部に1条の沈線を巡らせ、さらに鈍角に開く端部は反り気味となり、1条の沈線が巡る。脚裾部から脚上部にかけて左右対照に先細りとなる長方形状の透し2個が見受けられる。胎土に砂粒を含み焼成は良好で青灰色を呈する。



第22図 73号横穴出土遺物実測図（須恵器）

坏身（1. 2）

1は、漢道左中央部から出土したものである。口径12.6cm、器高4.6cmで底部はやや丸底をなし、体部から口縁部はゆるやかに内湾気味に立ち上がる。風化しており調整がはっきりしないがナデ調整の感がする。胎土に微砂粒を含み焼成は良好で赤褐色を呈する。

2は、漢道中央部から出土した破片である。底部は、やや平底気味をなし体部から器厚は薄く内湾して立ち上がる。風化しており調整が不明である。胎土に微砂粒を含み焼成は良好で褐色を呈する。

椀（3～5）

3は、漢道右中央部から出土したものである。口径15.1cm、器高4.8cmで底部はやや平底をなし、体部から口縁部はゆるやかに内湾気味に立ち上がる。器厚は厚い。内外面ともにヘラ磨きが施され、口唇部に横引きのナデ調整が施されている。胎土に微砂粒を含み焼成は良好で茶褐色を呈する。

4は、漢道左中央部から出土したものである。口径16.7cm、器高5.6cmで底部は平底をなし、体部はゆるやかな外開きに立ち上がり、口縁部は体部との境に稜をもって外反気味に立ち上がる。器厚は底部を除いて一定した器厚を持っている。底部及び体部はヘラ磨き調整が施され、口縁部はヨコナデ調整である。内面は風化のため不明。胎土に微砂粒を含み焼成は良好で赤褐色を呈する。

5は、漢道中央部から出土したものである。口径17cm、器高5.5cmで底部は半底をなし、体部から口縁部は器厚は薄く、内湾気味に立ち上がる。外面はヘラ磨き調整が施され、内面は風化のため不明。胎土に微砂粒を含み、焼成は良好で黄褐色を呈する。

盤（6. 7）

6は、漢道左中央部から出土したものである。口径17.3cm、器高3.2cmで底部は平底をなし、体部から口縁部は大きく外開きに立ち上がる。外面はヘラ磨き調整が施され内面は風化のため不明。胎土に微砂粒を含み焼成は良好で褐色を呈する。

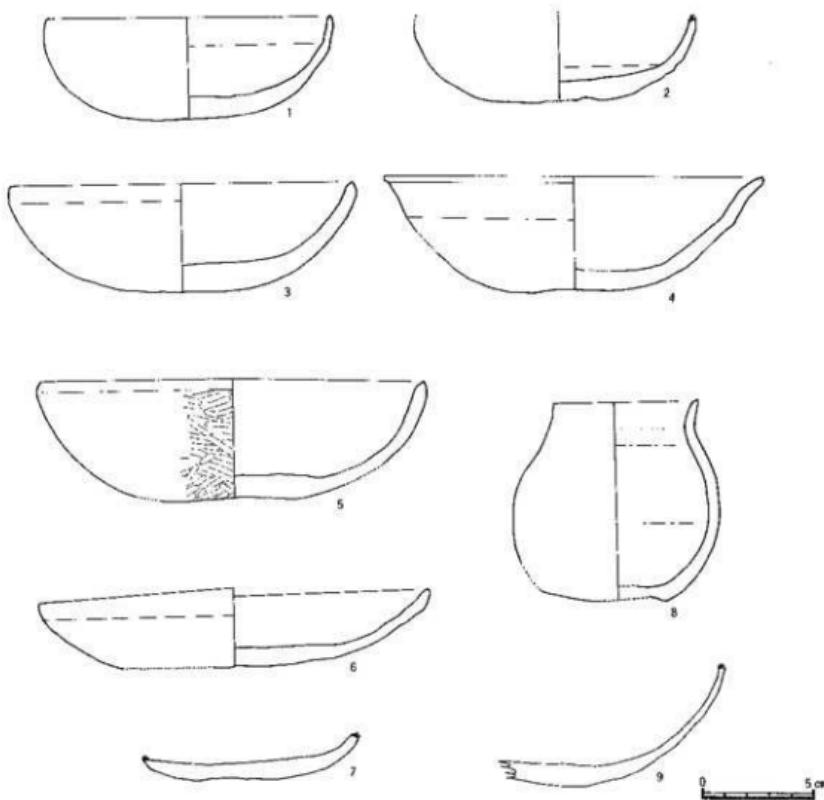
7は、漢道右奥部から出土した底部のみである。平底から体部は外開きに立ち上がる。風化のため調整は不明である。胎土に微砂粒を含み焼成は良好で赤褐色を呈する。

短頸壇（8）

漢道中央部からの出土である。口径6.5cm、器高8.8cmで、底部は変形した平底をなし、胴部が膨張し、頸部がわずかに縮まり、口縁部は、やや外反気味に立ちあがる。胴部は、ヘラ磨きが施され頸部から口縁部はヨコナデ調整が施されている。胎土に微砂粒を含み焼成は良好で茶褐色を呈する。

盤（9）

9は、漢道左前部からの出土破片である。器厚は底部で厚く体部から口縁部は非常に薄くなる。外面に縦方向の木口刷毛目調整がわずかに残っている。内面はヨコナデ調整が施されている。胎土に微砂粒を含み焼成は良好で灰色を呈する。



第23図 73号横穴出土遺物実測図（土師器）

〔鉄器〕（第23図）（図版16）

鉄鎌（1. 2. 3）

玄室入口左袖部から、いずれも出土したものである。銹着は、それほど見受けられないがいずれも茎部の基部を欠損した方頭広根斧箭式の鎌である。現存長、1は、4.7cm、2は、5.1cm、3は、5cmである。

刀子（4）

玄室入口左袖部からの出土である。半造りの刀子で角背をなす。茎は、欠損している。現存長7.6cm、背幅0.4cmである。

馬具（7、8）

7、8は雲珠と雲珠片である。7は、墓道前部左側壁に寄って出土している。鉄地に金箔が張られた雲珠であり、1部に金箔が残っている。肩庇付帽子状の形状をしており、底部は半円形で中央部に鋲状の止め金具が付いている。体部は中空半円状の断面をなし、周縁部に短い受け板が巡らされているが1部を除いて欠損している。体部径は現存径4.4cm、底部は径2.5cmの半円形をなし、体高2.1cmを測る。

8は、雲珠体部片である。形状は7と同じになるものと思われる。

不明鉄製品（5、6、9、10、11）

これらの鉄製品は、おそらく馬具として見てよいものであろう。

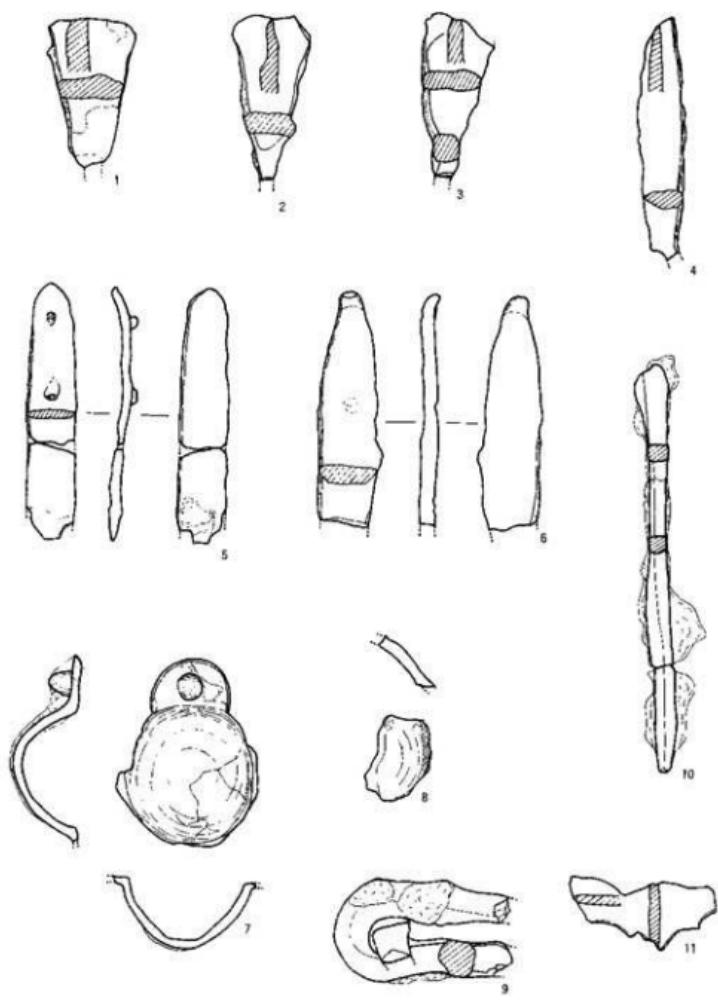
5は、玄室入口左袖部の出土である。先端部が丸く反りのある長方形板であり、下部を欠く。2個の突起が見受けられる。現存長8cm、幅1.5cm、厚み0.3cmである。

6は、5と同じく、玄室入口左袖部の出土である。先端部が先細りとなり、反りをもつ長方形板で下部を欠く。2個の鋲止め金具離脱痕を残している。現存長7.4cm、幅1.8cm、厚み0.4cmである。5、6は、セットになるものと思われ、革帯を挟む辻金具が想定される。

9は、玄室入口左袖部からの出土である。U字形に折り曲げられた部分のみであり、他は欠損している。折り曲げ内部に別個体の鉄心が銹着している。断面は円形を成し径1.1cmを測り、衝と思われる。

10は、羨道左奥部からの出土である。端部は欠損した細長い鉄棒である。現存長12.8cmで銹着が著しい。これは引手の部位が想定される。

11は、羨道中央部からの出土である。薄い鉄板状の破片であり、金具の種類は不明である。



0 5 cm

第24図 73号横穴出土遺物実測図（鉄器）

第IV章 結語

史跡地を中央で分断するような形で入り込む中央谷間に、さらに東側に入り込む南支谷がある。これら支谷は史跡地であり、昭和63年度までに造成、修景工事を終了している。また、支谷間に延びだす舌状丘陵、南斜面に横穴が新たに確認されたため、今年度発掘調査を実施したものである。

南支谷の北側、南斜面に70~72号横穴が分布し、発掘調査は、71号、72号を行い、70号は、崩壊著しく調査不能であった。

また、中央支谷北側斜面に73号横穴が単独で分布し、発掘調査を実施した。

さらに、中央谷と御諏訪池に挟まれて南に延びだす大丘陵の先端に入り込む支谷の西側、東斜面に分布する53号横穴を発掘調査し、今年度は4基の横穴を発掘調査した。

特に崩壊の著しかった、73号横穴に出土遺物が多かったことが特徴づけられる。

構造

(1) Gグループの53号横穴は、大型の類に属し、保存状態の良い横穴であった。前庭部、墓道、閉塞溝、長い羨道、そして妻入りタイプの玄室と玄室床面周囲から羨道部を経て閉塞溝へと流れを持つ排水溝の付設と整形された構造を持ち、天井は鋭角な切り妻を呈し側壁には調整痕を残すなど、蓮ヶ池横穴群構築時期の中では前半期にあたるものと思われる。

(2) Aグループの横穴は、70号の中心に東側に71号、西側に72号と間隔をもって並列に構築されている。70号は、発掘調査を行わなかった。71号は、中型の横穴で、狭い前庭部に短い墓道、そして閉塞石を持つ閉塞溝、やや長軸を持つ羨道から、長軸の短いやや方形状の妻入りタイプの玄室となる。羨道部及び側壁の1部に崩落を見受けれるが保存状態の良い横穴である。

玄室床面周囲に排水溝を持ち、天井は鋭角な切り妻を呈し、側壁には縦列の調整痕を残し整形された構造を持つ横穴であり、蓮ヶ池横穴群構築時期の中では、盛行期の前半期にあたるものと思われる。

72号横穴は、小型の横穴で、前庭部はなく長い墓道、そして閉塞溝、短い羨道を経て、妻入りタイプの玄室となり、やや彫形構造を成す。玄室内の排水溝及び側壁の調整痕等も顕著ではなく71号に比して構造の整形化を失った退化現象を見受けることができる。したがって、構築時期は71号より、後に構築されたものと思われる。

(3) 単独である73号横穴は、大型に属する横穴で急傾斜地に構築されたこともあり、前庭部を欠く。羨道部における閉塞溝はなく墓道と羨道部の区別が判然としない。玄室は妻入りタイプとなり長方形の床面を呈する。羨道部の天井、側壁及び奥壁に崩落が見受けられ、保存状態の悪い横穴である。しかし、羨道及び玄室部の天井が大きく崩落したこともあり、玄室入口、墓道、羨道部に副葬品の多くが出土した。

玄室床面周囲から羨道部の両側壁に沿って排水溝が付設されるとともに、残存側壁には縦列の調整痕が見受けられる。

蓮ヶ池横穴構築時期は、整形化される構築前半時期からすると、玄室天井の切り妻の角度がやや鈍角になる傾向が見受けられ、盛行期の中葉時期に構築されたものと思われる。

遺物

今回の発掘調査は、4基の横穴を発掘調査しており、これらの横穴は、從来から開口していたものと思われ、遺物の大半はいつの時期か持ち出された感が強い。特に71号からは土師器小片数点を出土したのみであった。

遺物出土の多かったのは73号横穴で、この横穴は、羨道部及び玄室部、側壁が早い時期に崩落し、一度に埋没したこともあり残存したものと思われる。73号からは、須恵器、土師器のほか、鉄地に金箔が張られた眉庇付帽子状の雲珠が出土したことは注目されるところであり、これまでの蓮ヶ池横穴群の出土遺物に新資料を提供することになった。

(1) 53号横穴

須恵器坏身、坏蓋、高壙脚部、切子玉2個、不明鉄製品等を出土している。全体的に遺物の出土が少なく後世に搬出されたものと思われる。なかでも受け部反りのある須恵器坏蓋片が1点出土しており、受け部反りは口縁部より0.6cm突出しており、須恵器編年からするとⅣ時期に比定されるものと思われる。

(2) 71号横穴からは出土遺物無し。

(3) 72号横穴からは、金環1個が出土している。

(4) 73号横穴

出土遺物が多く、須恵器は、坏蓋（宝珠状のツマミを有するもの、ボタンのツマミを有するもの、ツマミを有しないもの）、坏身、長頸広口壺（口縁部のみ）、高壙（脚部のみ）があり、土師器には、坏身、碗、盤、短頸壠、壠の器種が見られる。鉄器では、鉄鎌、刀子、雲珠それに不明鉄製品としてとりあつかっているが、おそらく馬具に属するものと思われるものが出土している。

須恵器から。宝珠状のツマミを有する坏蓋は、Ⅴ期の後半期、ボタン状のツマミを有するものをⅥ期の初頭に想定し、須恵器は全体的にⅤ期の後半時期にまとめることができそうである。

以上のごとく、須恵器の出土は、53号と73号にかぎられており、遺物からの構築時期については、これら2基の横穴のみを想定することはできる。

構造等から全体的に構築時期を考えるとき、今回の発掘調査分の横穴では、53号横穴が先行し、71号、73号、72号の順に構築されたものと思われる。

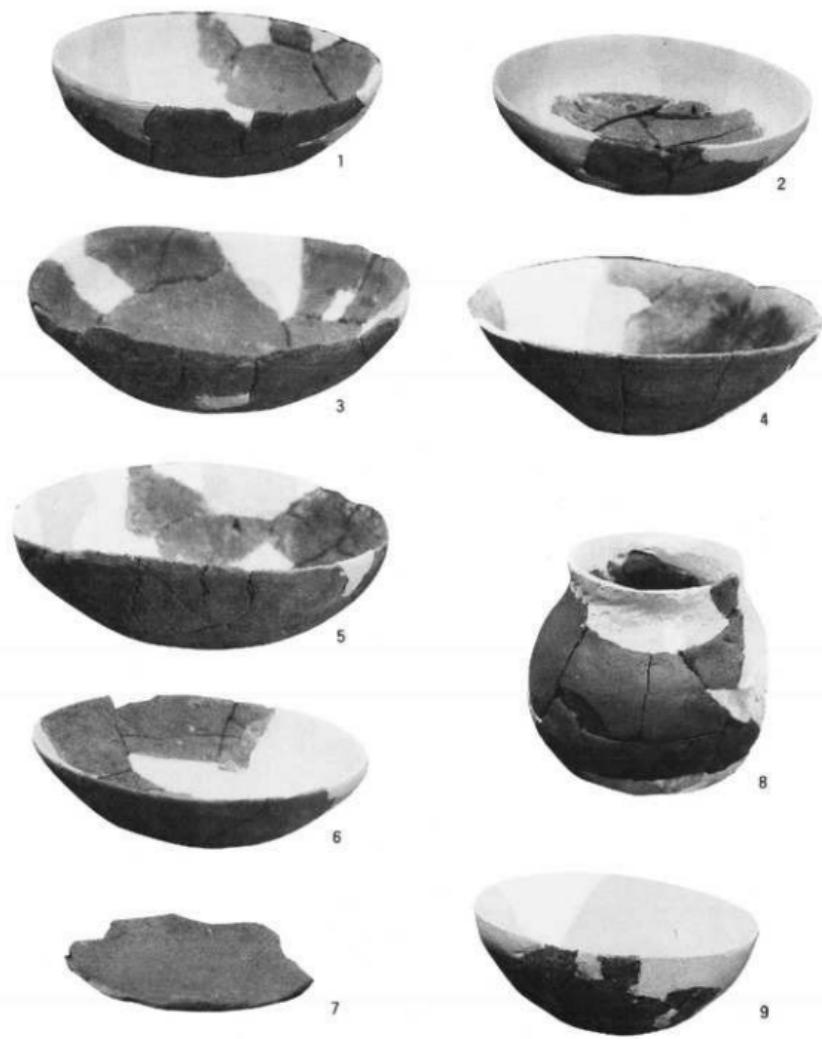
図版



图版13 53号横穴出土遗物



图版14 73号横穴出土遗物(须惠器)



图版15 73号横穴出土遗物(土师器)



图版16 73号横穴出土遗物(铁器)



図版17 53号横穴 土のうによる被覆



図版18 71号横穴 土のうによる被覆



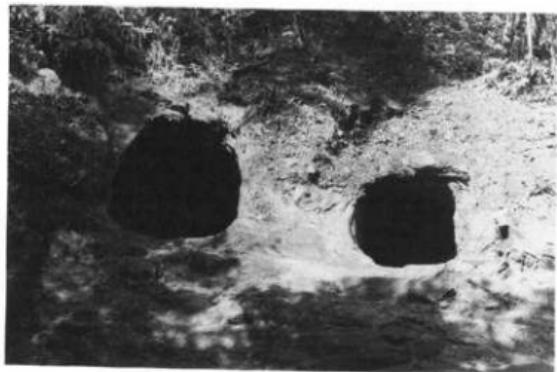
図版19 72号横穴 土のうによる被覆



図版20 73号横穴 土のうによる被覆



15号横穴



16, 17号横穴



18号横穴

図版21 横穴保存工事〔着工前〕 (1)



19号横穴



20号横穴



21号横穴

図版22 横穴保存工事〔着工前〕 (2)



20号横穴
土のう閉塞状況



20号横穴
土のう閉塞後の
ステンレス骨組
み状況

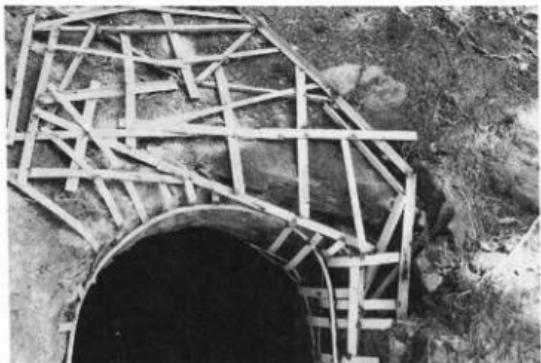


20号横穴
FRP貼り付け後の
金網張り状況

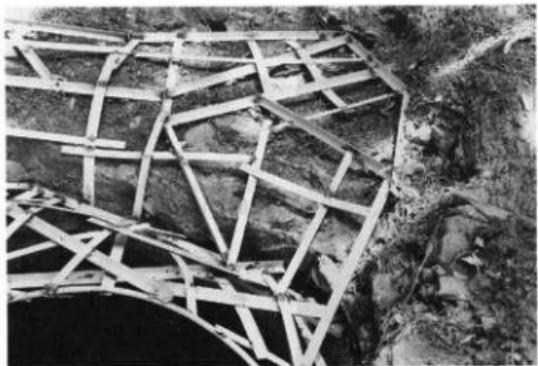
図版23 横穴保存工事 (3)



16号横穴
轨道部ステンレス
骨組み状況



17号横穴
轨道及び前面壁
ステンレス骨組
み状況



18号横穴
轨道及び前面壁
ステンレス骨組
み状況

図版24 横穴保存工事 (4)



15号横穴
ウレタン吹付け状況



17号横穴
ウレタン吹付け状況



20号横穴
ウレタン吹付け状況

図版25 横穴保存工事 (5)



16号横穴
ウレタン被覆 FRP
貼り付け状況



20号横穴
ウレタン被覆 FRP
貼り付け状況



18号横穴
FRP貼り付け後の
金網張り付け状況

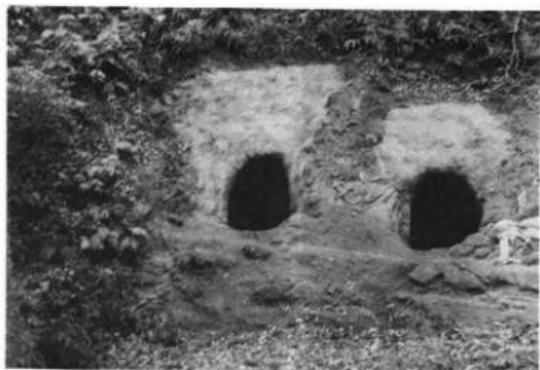
図版26 横穴保存工事 (6)



19号横穴
擬土貼り付け状況



15号横穴
保存工事完成



16, 17号横穴
保存工事完成

図版27 横穴保存工事 (7)



18号横穴
保存工事完成



19号横穴
保存工事完成



20, 21号横穴
保存工事完成

図版28 横穴保存工事 (8)



12号横穴周辺修景
工事着工前



修景工事完成



植栽工事完成

図版29 修景工事—12号横穴周辺修景 (1)



中央谷間奥
支谷広場修景
工事着工前



芝生舗装
植栽工事状況



中央谷間奥
支谷広場修景
工事完成

図版30 修景工事—中央谷間奥支谷広場 (2)



見学道工事着工前



見学道階段工事状況



見学道完成

図版31 修景工事—第1集団CグループからD、Eグループに通ずる見学道 (3)



見学道工事着工前



見学道階段工事状況



見学道完成

図版32 修景工事一中央部丘陵見学道 (4)



石組み作業状況



せせらぎ水路完成

図版33 修景工事—せせらぎ水路工事 (1)



中央広場奥部
工事着工前



石組み作業状況



せせらぎ水路完成全景

図版34 修景工事—せせらぎ水路工事 (2)



御諏訪池奥部
東側支谷
工事着工前



敷地造成
盛土搬入状況



御諏訪池奥部
東側支谷広場
造成完成

図版35 修景工事一 御諏訪池奥部広場 (1)



御簾訪池奥部
西侧支谷
工事着工前



芝生鋪装完成

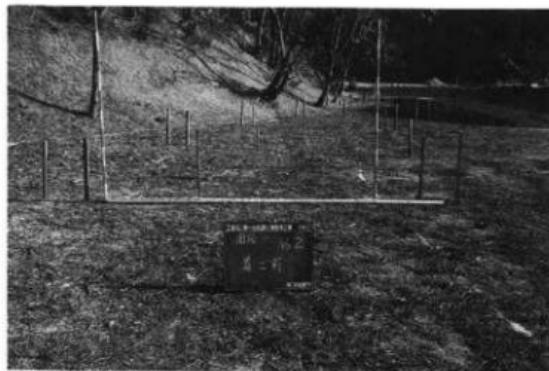


敷地造成
植栽工事
完成

図版36 修景工事—御簾訪池奥部広場 (2)



図版37 修景工事一中央広場 (1)



中央広場
園路工事
工事着手前



縫石据付状況



園路工事完成

図版38 修景工事—中央広場 (2)



御諏訪池西岸
支谷広場工事着工前



敷地造成
盛土搬入状況



広場敷地造成
工事完成

図版39 修景工事一御諏訪池西岸支谷広場

蓮ヶ池横穴群

保存整備事業概報Ⅳ

(平成元年度計測調査概報)

平成2年3月31日

編集・発行 宮崎市教育委員会

印 刷 合資会社 爰文社印刷所

宮崎市高洲町222番地